



学校は 楽しいところなのか

尚美学園短期大学教授
深谷昌志

★「楽しい」の意味を掘り下げよう ——

「楽しい学校作り」を目指している学校が多い。学校が規則づくめで居心地のよくない場であっては困ると思う。とはいうものの、「楽しく」というときの「楽しさ」の中身が問題になる。

子どもたちに「楽しいときは？」と尋ねてみる。「自分の部屋でマンガを読んでいるとき」とか「夜遅く、宿題を終えて、テレビゲームをしているとき」などの返事が戻ってくる。また、「去年、楽しかったことは？」の問いに、「ディズニーランドへ行ったこと」や「家族でキャンプへ行ったこと」と答える子どもが多い。

「楽しい」とは面白かったり、スカッとしたり、心からゆったりできる状況を指すのであろう。しかし、残念ながら学校はディズニーランドや遊園地ではない。学校へ行けば、時間割にしたがって、授業を受けなければならない。科目のなかには、苦手なものもある。勉強が得意な子は楽しく時を過ごせるとしても、苦手な子にとっては、授業は苦行の連続となる。そして、得意な子は少数派で、苦手な子がかなりの割合を占めるのが学校の状況であろう。勉強の得意な子でも黙って座っていることが苦手なタイプなら授業は受けたくないかもしれない。

そう考えたとき、「学校を楽しく」などと安易にいうのは無責任すぎるように思う。

もちろん、そうはいても、学校が苦行の場であっていいという気持ちはない。

問題は「楽しく」の内容であろう。仕事をしているとき、「楽しいか」と言われれば、「とんでもない」と思う。かといって、「苦行か？」と問われたら、「大変だが、苦しいという感じはしない」が大半の人の感想であろう。特に仕事があまくいっているときは、「熱中していて、時間の経つのがわからない」や「自分らしさを発揮している感じで、充実している」の気分になる。

★ 学校の構造を変える

それと同じように、学校が目指すのはたんなる「楽しさ」ではなく、「充実感」や「自己実現」の感触であろう。

歴史的にとらえると、日本の学校は西欧の知識を伝達する使命を負って、「お上の学校」という性格を帯びていた。そのため、教える側の論理が優先して、教わる側の感覚は軽視されがちであった。学校は「教育」の場であって、「学習」の観点からの配慮がなされていなかったのだ。

欧米の学校を訪ねると、それこそ「楽しそう」という印象を受ける。子どもたちがのびのびとしていて、自由に振る舞っている。子どもたちが拘束されていない。もちろん、のびのびとしている反面、強制が少ないので、やる気のある子の学力は伸びるが、怠け気味の子はいくらでも怠けられ、学力が身につかない。

学習するのは子ども本人だから、学校は学

びたい子に可能な限りの援助をするが、学ばない子は放置するというのが欧米の学校であろう。そうした問題はあるにせよ、学校は明るく楽しい。そして、学校は子どもの居心地をよくするための多くの努力を重ねている。まず、学校を訪ねると、玄関の回りにカラフルな飾りがしてあって、それだけでも、子どもの国に来た感じがする。朝の会にしても楽しい音楽が流れ、規則は最小限に止められている。欧米でも学校が知識を伝達する場であることに変わりはない。そうであるからなおのこと楽しい雰囲気作りを心がけているのであろう。

「子どもが充足感を持てる学校作り」は、それぞれのレベルでの対応が可能であろう。建物や教員数、設備などは行政の問題となるが、学校単位でも廊下の使い方や行事の持ち方、時間割の組み方などを検討するだけで雰囲気が変わる。学級でも座席の座り方、壁の使い方、給食の取り方などの工夫ひとつで、拘束感を弱め、のびのびとした学級を作ることが可能だ。

問題は「子どもの身になって考えられるか」であろう。企業にたとえるならば、学校にとっての顧客は子どもたちだ。顧客の意向に配慮するのはビジネスとして当然の感覚である。学校を利益追求型の企業と同一視する気はないが、これまであまりに「子ども不在な学校」が多すぎたように思う。そうした意味での学校改革を望みたいが、その前に子どもにとって学校がどういう場として機能しているのかの検討を始めることにしたい。

〔調査レポート〕

学校の「居心地」を考える

尚美学園短期大学教授 深谷昌志
埼玉県立松山高等学校教諭 三枝恵子
杉並区立杉並第六小学校教諭 土橋 稔
杉並区立桃井第二小学校教諭 鶴巻景子



『モノグラフ・小学生ナウ』Vol.17 - 3

調査レポート

学校の「居心地」を考える

要 約

調査概要

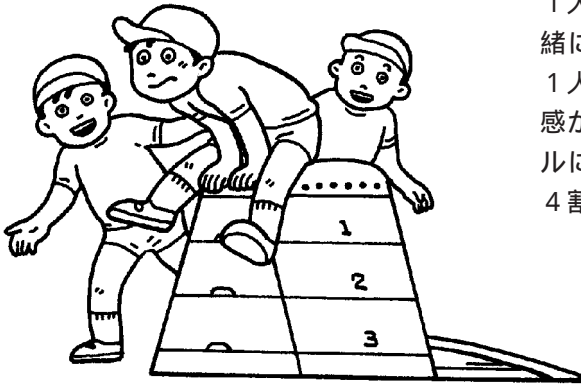
1. 調査主題 学校の「居心地」を考える
2. 調査視点 学校に行けない子、学校に行っても保健室でしか居場所が見つけれない子、友だちからのいじめや人間関係で苦しんでいる子どもたちが少なくない。そうした、学校が楽しい場でない子どもたちが、全体の中でどのくらいを占めるのか、そしてそうした居心地のよくなさをもたらす背景は何か。換言するなら、学校が子どもたちの自己実現の場になっているのか、どれだけ居心地のよい場となっているのか検証することにした。
3. 調査項目 一日の楽しさ、学校内でホッと場所、学校以外の生活空間の楽しさ、学習の楽しさ、授業での体験、好きな教科、休み時間の過ごし方、クラスの様子、友人関係、担任との関係、自己像、成績、学校の楽しさ、など。
4. 調査時期 1997年6月～7月
5. 調査対象 東京・千葉の公立小学校
6年生
6. 調査方法 学校通しによる質問紙調査
7. サンプル数 1,722名（男子852名、
女子870名

1. 子どもたちの一日で最も楽しい時間は「家に帰ってから、友だちと遊ぶとき」。2位は「休み時間」で、9割の子どもが休み時間を「とても・わりと楽しい」と感じている。3位は家で「テレビを見るとき」。4位の「クラブ活動の時間」まで「とても楽しい」割合が5割を超える（図1）。

2. 子どもたちが体験する学校行事の楽しさは「夏休み」が最も多く、「とても楽しい」が86%、そして「移動教室」が67%。「遠足」や「運動会」は、「あまり・ぜんぜん楽しくない」と思っている子が1割前後いる（図3）。

3. 子どもたちが「とてもホッとする」場所は「図書室」「屋上」「飼育している動物のそば」「校庭や体育館」、続いて「保健室」「図工室などの専科の教室」である。「教室」がホッとできる場所と感じる子どもは少ない。「とても・わりと」を合わせても43%、落ち着かないという子どもも17%いる(図4)。

4. 授業での体験は、1位「体育の授業が楽しくて夢中で運動したこと」が「しょっちゅうある」子は34%、2位「跳び箱が跳べてうれしかったこと」27%。「ほとんどない」体験は、1位「算数の問題の解き方をみんなに説明したこと」48%、2位「学級会で自分の考えを発表したこと」40%で、4割を超える(表1)。



5. 学習の楽しさは、1位「調理実習」が「とても楽しい」53%、2位「サッカーやバスケットボール」52%で、「わりと」を合わせると7割を超える。逆に、「ぜんぜん楽しくない」学習は、「調べたことをまとめて発表すること」24%、「算数のテスト」23%、「作文を書く」22%、「算数の文章問題を解く」20%、「農業や工業の勉強」17%である。「あまり」を合わせると4~5割。性別では、「サッカーやバスケットボール」「算数の文章問題を解く」「算数のテスト」は男子が、「歌や楽器の演奏」「調理実習」は女子の数値が高く、男女差が顕著である(表2、図7)。

6. 「一緒にいて疲れないうだち」が「たくさんいる」子は37%、少なくとも1人以上いる子は9割を超す。「いつも一緒に遊べる友だち」も、9割以上の子が1人以上いると答えている。一方、「優越感がもてる友だち」「運動や成績でライバルになる友だち」が「いない」子はほぼ4割(表3)。

7. 休み時間の過ごし方は、「とてもよく・わりとしている」でみると、「友だちと外で遊ぶ」63%、「教室でおしゃべりしている」51%。一方、「校庭でみんなが遊んでいるのを見ている」子は11%、「ときどきしている」を合わせると28%。「教室で1人で遊んでいる」子も15%、「保健室」が休み時間の居場所となっている子どもも1割(表4)。



8. 担任の先生から「ほめられてうれしかった」ことが「とてもある」子は11%、「わりと」を合わせ3割。「がんばれと励まされたり、声をかけられてうれしかった」ことは2割(表5)。

9. 担任の先生から「信頼されている」と思える子どもは13%で、そう思えない子どもは59%に達する(表6)。

10. 学校にいるときの気持ちは、「友だちから自分がどうみられているか、気になる」で「とてもよくある」18%、「わりと・ときどき」を含めるとほぼ6割で、子どもたちは友だちの目を意識している。性別では「友だちから自分がどうみられているか、気になる」「クラスに悪口を言う子が多く、いやな気持ちになる」で女子の数値が高い(表11、図9・10)。

11. 学校に行くのが「とても楽しみ」24%、「わりと」を合わせ学校を楽しみにしている子どもは57%、逆に、「ぜんぜん楽しみでない」7%、「あまり」を合わせると約2割の子どもが学校を楽しい場所とは思っていない。これに「少し楽しみ」を加えると、楽しさを感じられない子は43%と4割を上回る(表12)。

12. 授業での体験や学習の楽しさでは成績との関連が高い。上位者は楽しくて夢中になったり、うまくできてうれしかったり、いろいろ工夫して実験したり、みんなの前で発表したりと、さまざまな授業での体験をもっている。学習の楽しさも成績上位者は「1. 調理実習」から「18. 作文を書く」まで、国語や算数のテストも含めてすべての学習を楽しんでいる割合が高い(表13・14)。

13. 担任の先生との関係は、成績上位者は「先生から信頼され、先生のそばにいと安心し、先生から好かれている」と思っている。そして、「ほめられたり、がんばれと励まされたり、声をかけられてうれしかった」体験も多量もっている(表15・16)。



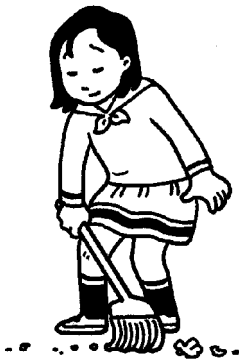
14. 友だち関係で、成績下位者は「一緒にいて疲れない友だち」「いつも一緒に遊べる友だち」「困っているとき、相談にのってくれる友だち」「優越感もてる友だち」「運動や成績でライバルになる友だち」が、「いない」割合が高い(表18)。

15. 成績下位者で、学校に行くのが「とても楽しみ」と答えた子が19%、「わりと」を合わせても5割に達しない。成績上位者、中位者の6割を超える数値と差が大きい(表21)。

16. 成績の自己評価が低い子どもでも、優越感もてる友だちやライバルになる友だちがいると、体育や音楽、図工などはもちろん、算数の学習や算数のテストも楽しくなる。そして、学校に行くのも楽しくなる(表22・23)。

17. 教室に居場所のない子どもたちにとって、学校の中でホッとできる場所は「屋上」「図書室」「飼育している動物のそば」「校庭や体育館」「保健室」。人とかがわらないところが自分を受け入れてくれ、安心できる場と思っている(図11、表25)。

18. 教室に居場所のない子どもたちにとって、「ぜんぜん楽しくない」時間は「朝、目がさめたとき」、次いで「掃除の時間」「授業の始まる前」「宿題や勉強をするとき」「算数の時間」となっている(表27)。



19. 学習に対する楽しさは、教室に居場所のある群が高いが、それほど差ではない。教室に居場所のない群の子どもたちが「ぜんぜん楽しくない」と答えた学習は、国語や算数の学習で、3割前後の子どもが楽しくないと感じている(表29)。



20. 教室に居場所のない群では、漢字テストで100点を取ってうれしかった経験が「ほとんどない」子が約2割、理科の実験や観察がうまく行ってうれしかった経験、社会で調べたことが上手にまとめられてうれしかった経験、跳び箱が跳べてうれしかった経験が「ほとんどない」子が約3割、学級会で自分の考えを発表した経験が「ほとんどない」子が5割(表30)。

21. 友だち関係では教室に居場所のない群は、「困っているとき、相談にのってくれる友だち」のいない子が23%、「宿題や勉強を教えてもらえる友だち」のいない子が35%、「いつも一緒に遊べる友だち」のいない子が14%と、教室に居場所のある群を大きく上回っている(表31)。

22. 担任との関係では教室に居場所のない群は、「あまり・ぜんぜんない」割合が「先生に信頼されていると思う」71%、そして「先生のそばにいと安心する」76%、「先生から好かれていると思う」81%(表37)。

〔まとめ〕

学校に居心地のよさを見いだせない子どもが多い。そうした子は授業だけでなく、友だちや先生との関係でも閉ざされた状況にある。

子どもたちが居心地のよさを感じられる学校は、どうすれば可能なのか。子どもたちが自由にのびのびとできる時間帯を望み、楽しんでいることを考えると、子どもが「座っている場」から、子どもが「活動する場」へ、学校の体質を変えていくことが大事であろう。



はじめに

かつての社会では、学校へ行かなければ知識は身につかなかった。学校は地域の中心であり、文化の中心であり、知識の宝庫だった。そして、その中で子どもたちはさまざまな知識や技能を身につけていった。それだけに学校は社会の中で、なくてはならない存在だった。

ところが現在では、テレビや雑誌、ラジオなどを通して学校よりはるかに豊富に、迅速に、あらゆる情報が子どもたちの手に入るようになった。それと同時に学習塾、おけいごと、スポーツクラブなどで、学校でなくてもさまざまな知識や技能を身につけることができる。学校をとりまく環境が大きく変わってきたのに、学校はそれほどの変化を示していない。学校の存在意義が問われているのではないだろうか。

そして学校の中で生活している子どもたちに目を向けると、学校に行けない子、学校に行っても保健室しか居場所を見つけない子、教室の中でも友だちからのいじめや、人間関係で苦しんでいる子どもたちが

少なくない。各学校からは、その数は年々増加しているという報告がある。学校が楽しい場ではなく、苦痛をうむ場となっている子どももいる。

考えてみると、昔の学校も楽しくなかったような気がする。しかし子どもをとりまく環境が劣悪だったので、学校外と比較して、学校にいるのが楽しかったように思える。そうした意味では、学校外の生活が楽しくなりすぎたのかもしれない。それに学校は勉強をする場で、それほど楽しくなくてもよいようにも思える。そうはいても、子どもは学校で長い時間を過ごす。それだけに学校が充足感を持てる場であってほしい。

子どもたちにとって「明日が待たれる学校」でありたい。今の学校が子どもたちにとって、どれだけ自己実現できる場になっているのか、そしてどれくらい居心地のよい場なのか、子どもたちは学校をどんな居場所としてとらえているのか、さまざまな角度から検証してみたいと思う。

1

学校は過ごしやすいところか



学校生活の楽しさ)))

子どもたちは、一日をどんな気持ちで過ごしているのだろうか。朝起きてから夜寝るまでの子どもたちの楽しさを尋ねたのが、図1である。「3.授業の始まる前」から「9.掃除の時間」までが学校での生活。その前後は主に家の中での生活になっている。

朝の目覚めは共通して悪い。「わりと」を含めても楽しいと思える子どもは17%にとどまる。「よし朝だ。今日も一日がんばるぞ」なんて言う子はほとんどいない。「いやだなあ」「もっと寝たいなあ」「今日も学校か」推測するとそんな気持ちだろうか。「あまり」と「ぜんぜん」を含めると、「楽しくない」という子が6割近くに達する。しかし、その気持ちも徐々に持ち直し、朝食の頃には、元気が出てくる子が増えてくる。

こんなふうに時間の経過と共に、楽しさを追いかけていくと、最高に楽しいのが、「家に帰ってから、友だちと遊ぶとき」で、「とても楽しい」が76%に達する。そういえば帰りの会のときに、今日遊べるかと約束を取り交わしている子どもたちの姿をよく見かける。しかし、子どもたちの放課後は、おけいごとや塾などで多忙である。遊べるのはせいぜい半数で、残念ながらこの楽しさを味わえない子どもたちも多い。この点、2位の「休み時間」は、子どもたち全員が共通して確保できる時間である。窮屈な学校生活の中でということもあるのか、楽しくないという子はほとんどおらず、9割の子が休み時間を「とても・わりと楽しい」ものだとしている。3位は家で「テレビを見るとき」。次の4位

の「クラブ活動の時間」までが「とても楽しい」割合が5割を超している。

一方楽しくないのは、「朝、目がさめたとき」と「宿題や勉強をするとき」、「算数の時間」となる。「掃除の時間」「授業の始まる前」も人気は低い。

これを男女で比べてみると、図2が示すように、男女とも楽しいのは「家に帰ってから、遊ぶとき」。女子の傾向として、夜、親と話したり、夕食を一緒にしたり、テレビを見ている時間が楽しいと思っている子どもが多い。男子は、学校の体育や給食の時間に楽しさを感じている子どもが多い。いずれにせよ、子どもたちは休み時間などを除くと、学校に楽しさを感じていない。

次の図3は、子どもたちが体験する学校行事の楽しさを尋ねたものである。1番は、なんといっても「夏休み」で、「とても楽しい」が86%にもなる。そして「移動教室」が67%。

この2つが「日曜日」より楽しい行事。しかし「遠足」や「運動会」は、「楽しくない」と思っている子が1割前後いる。そして「学芸会」や「展覧会」のような文化的な行事は、「とても楽しみ」にしている子もいるし、「あまり楽しくない」と思っている子もいる。クラスの中にわりと分散しているということだろう。

この結果に、図1の日常生活の楽しさを含めて順位をつけてみると、1位の「夏休み」は別格として、2位は「家に帰ってからの友だちとの遊び」。以降、「移動教室」「休み時間」「遠足」が6割以上の子どもたちの「とても楽しい」時間となる。

子どもにとっての楽しい時間とは、友だちとのびのびと動いているときのだろう。それに対し、授業中の子どもは、多くの時間じっとしていなければならない。それだけでも学校は気の重い場所なのかもしれない。

図1 一日の楽しさ

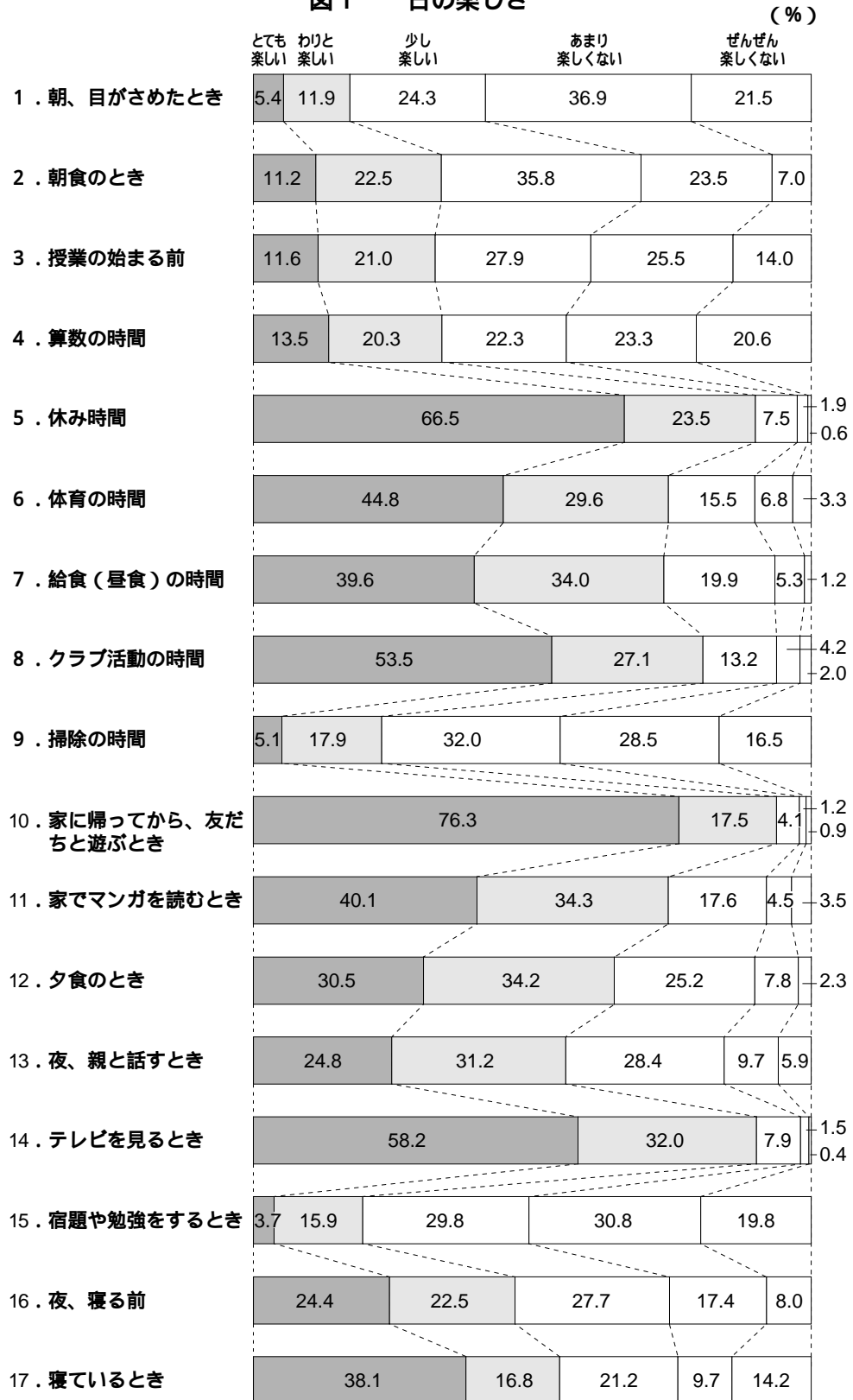


図2 一日の楽しさ × 性

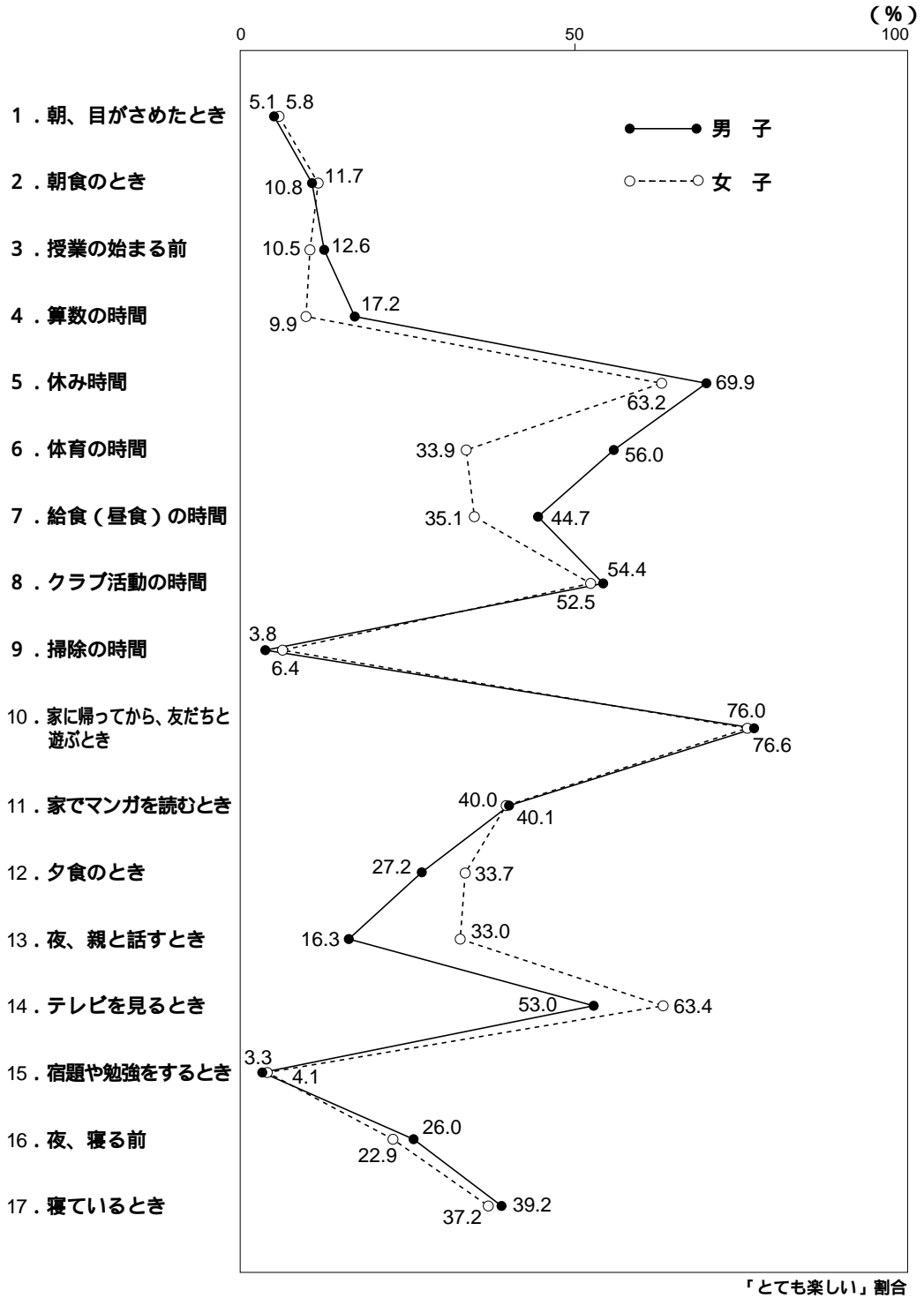
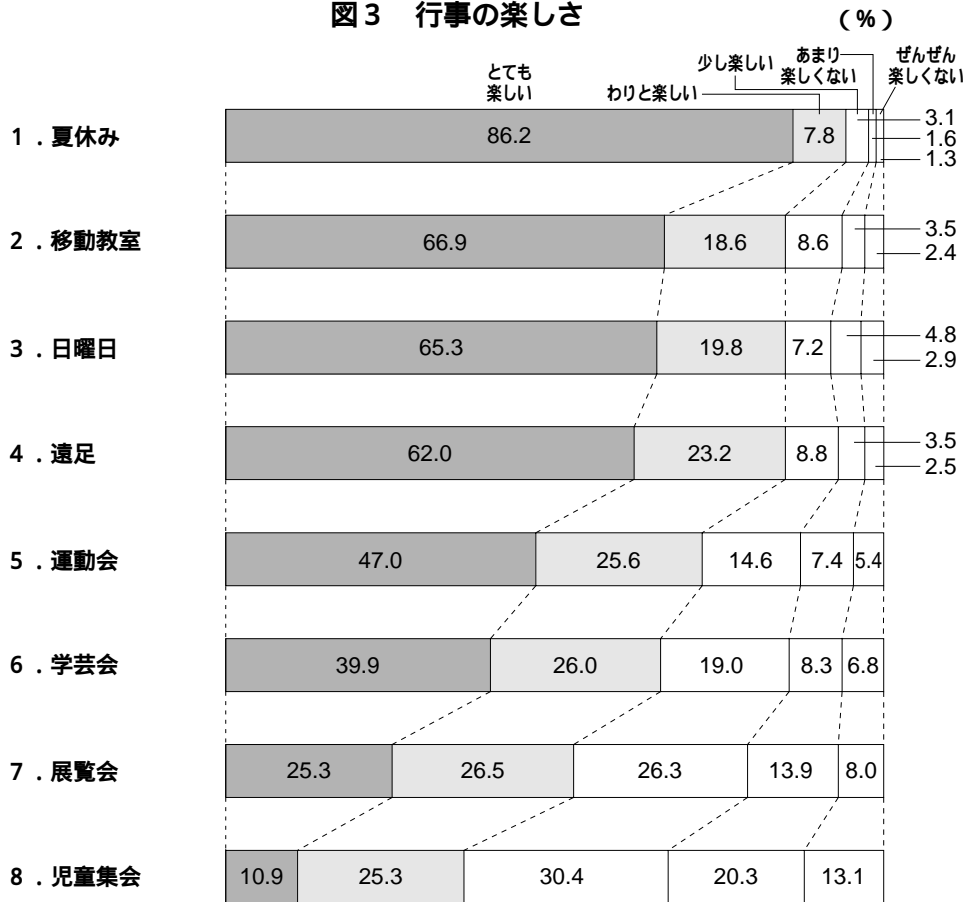


図3 行事の楽しさ



ホッとする場所)))

そこで観点を变えて、楽しさではなく学校の中のどの場所が、子どもたちの居心地のよい場所になっているか尋ねてみた。

図4が示すように、「とてもホッとする」場所は「図書室」、そして「屋上」、「飼育している動物のそば」、「校庭や体育館」がほぼ同じ数値を示し、続いて「保健室」、「図工室などの専科の教室」、それからやっと「教室」となる。「とてもホッとする」安心できる場所として、教室は7番目と、とても低い。

この、ホッとするか落ち着かないかは、その場所にどのような心理状態にいるかということと大きく関係してくる。その意味で、それぞれの場所をもう一度見直してみる。

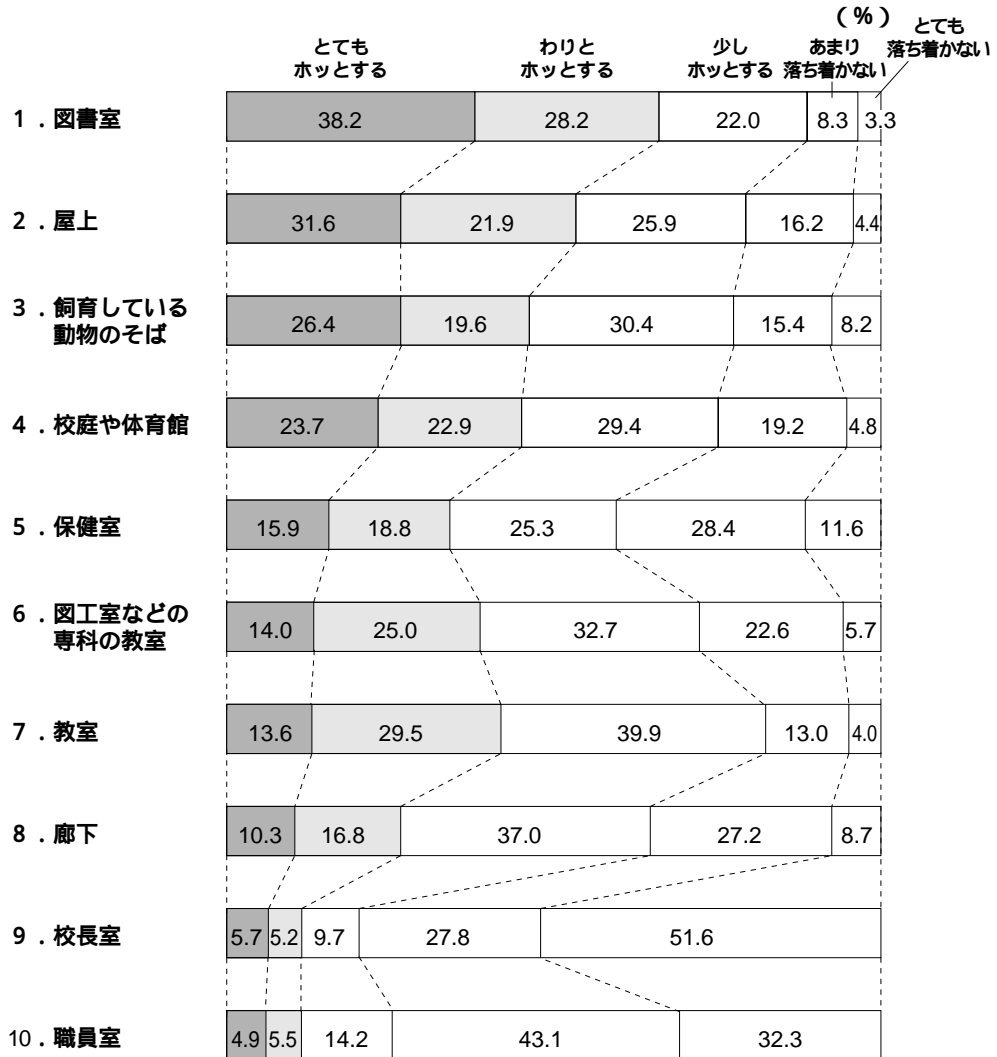
トップの図書室は、人とかがわることがほとんどなく、自分の好きな本を1人で読める

場所である。多くの子どもたちが、安心して時間を過ごせる最高の場所となっているようである。

一方、教室は子どもたちにとっては、いわば自分の家のようなものであるが、それにしてもホッとする数値が低い。「とても・わりと」を合わせても43%で、自分の教室が落ち着かないという子どもが17%に達する。

もちろん、これは全体としての傾向で、同じ学校でも安心度の高いクラスもあれば、落ち着かないクラスもある。また同じ学級でも子どもたちがどのような気持ちで過ごしているかは、子どもによって異なる。そうしたさまざまな要因についての詳しい考察は、3章で行っていききたい。

図4 ホットとする場所



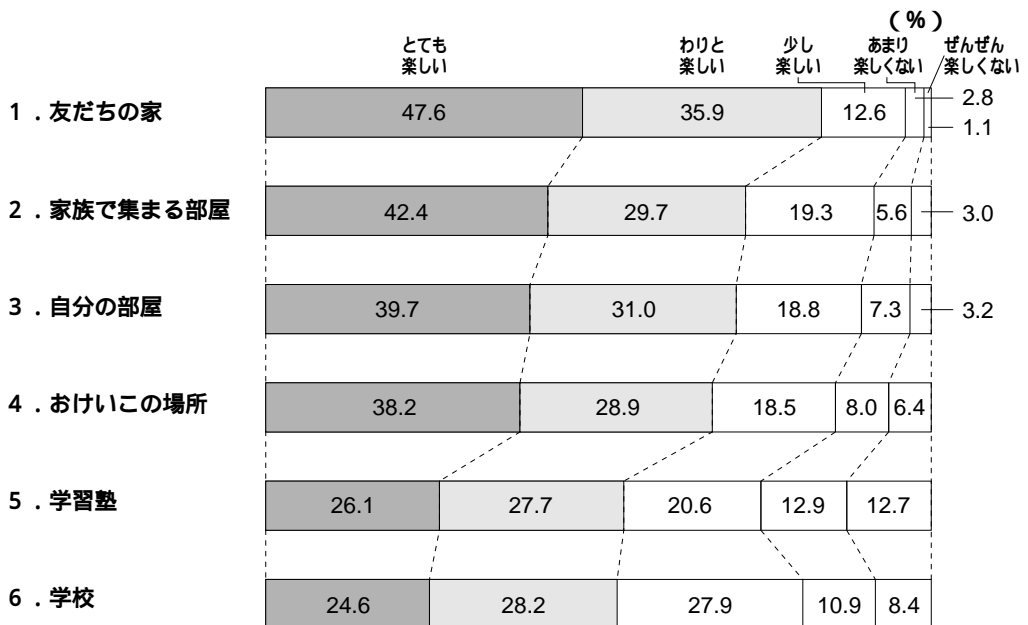
2. 屋上については、屋上のある者の割合

楽しい生活空間)))

次の図5では、学校と学校以外の子どもたちの生活空間を比較して、子どもたちにとっての学校の楽しさをみていこうとしたものだ。1から6まで子どもたちの主な生活の場で、「とても楽しい」割合でみると、「学校」の楽しさは最下位になる。家族、友だちは当然としても、おけいごとや学習塾よりも低くな

っている。子どもたちの一日の生活の大半は学校で費やされているのだが、それにもかかわらず学校が楽しくないという子どもが2割もいる。学校にディズニーランドのような楽しさを望むのは無理としても、楽しさがおけいごとや学習塾を下回るのはなぜか。学校を楽しくする工夫が必要ないように思われる。

図5 楽しい生活空間



2

子どもたちの充足感を追って



この章では、学校生活の充足感を授業中の体験、学習の楽しさ、学校内の人間関係から探っていく。

学習場面の体験と楽しさ)))

まず、子どもたちは授業中、どんな活動をして、どんな楽しさを体験しているのか。表1は、国語、算数、理科、社会、図工、音楽、体育、学級会におけるどのような体験をしているのかを示している。「しょっちゅうある」とみると、1位「体育の授業が楽しくて夢中で運動したこと」34%、2位「跳び箱が跳べてうれしかったこと」27%、次いで「調理実習でおいしい料理ができて楽しかったこと」27%、「音楽で上手に楽器が演奏できてうれしかったこと」21%、「図工で上手な作品が作れてうれしかったこと」21%となる。

逆に、「ほとんどない」体験は、1位「算数

の問題の解き方をみんなに説明したこと」48%、2位「学級会で自分の考えを発表したこと」40%で4割を超える。次いで「理科の実験をいろいろ工夫してやったこと」21%、「社会で調べたことを新聞のように上手にまとめられてうれしかったこと」19%、「理科の実験や観察がうまくいってうれしかったこと」18%と、自分の考えを発表したり、算数や理科の授業でうれしかった体験、そしていろいろ工夫して意欲的に勉強した体験は少ない。体育や図工、音楽などと比べ、国、算、理、社の授業では子どもたちの動きが少ないのであろう。

図6は、男女で比較した結果である。男子は「体育の授業が楽しくて夢中で運動したこと」「理科の実験をいろいろ工夫してやったこと」「算数の問題の解き方をみんなに説明したこと」で女子より数値が高い。それに対し、女子は「音楽で上手に楽器が演奏できたこと」「調理実習でおいしい料理ができたこと」「漢字テストで100点を取ったこと」の項目で差がみられる。

次に領域ごとにもう少し詳しく学習の楽しさをみていこう。表2は、各教科の学習内容について具体的に尋ねた。「とても楽しい」でみると、1位「調理実習」53%、2位「サッカーやバスケットボール」52%で、「わりと楽しい」を合わせると7割を超える。次いで「絵を描いたり工作を作る」「理科の実験」「歌や楽器を演奏する」が3～4割。逆に「ぜんぜん楽しくない」学習は、「調べたことをまと

表1 授業での体験

	(%)			
	しょっちゅうある	わりとある	たまにある	ほとんどない
1. 体育の授業が楽しくて夢中で運動したこと	①33.8	26.6	26.6	13.0
2. 跳び箱が跳べてうれしかったこと	②27.3	25.7	29.8	17.2
3. 調理実習でおいしい料理ができて楽しかったこと	③26.5	35.2	28.7	9.6
4. 音楽で上手に楽器が演奏できてうれしかったこと	④21.1	30.8	31.4	16.7
5. 図工で上手な作品が作れてうれしかったこと	⑤20.7	34.1	31.6	13.6
6. 漢字テストで100点を取ってうれしかったこと	20.2	31.6	32.7	15.5
7. 算数の難しい問題が解けてうれしかったこと	17.5	30.5	37.4	14.6
8. 社会で資料を使ったり、実際に行ったりして、いろいろ調べたこと	16.9	30.2	35.9	17.0
9. 理科の実験や観察がうまくいってうれしかったこと	15.9	30.6	35.7	⑤17.8
10. 社会で調べたことを新聞のように上手にまとめられてうれしかったこと	14.8	29.6	36.4	④19.2
11. 学級会で自分の考えを発表したこと	13.1	16.5	30.0	②40.4
12. 理科の実験をいろいろ工夫してやったこと	13.0	29.3	36.5	③21.2
13. 国語の教科書をみんなの前で読んだこと	9.7	24.3	48.3	17.7
14. 算数の問題の解き方をみんなに説明したこと	8.1	13.2	30.8	①47.9

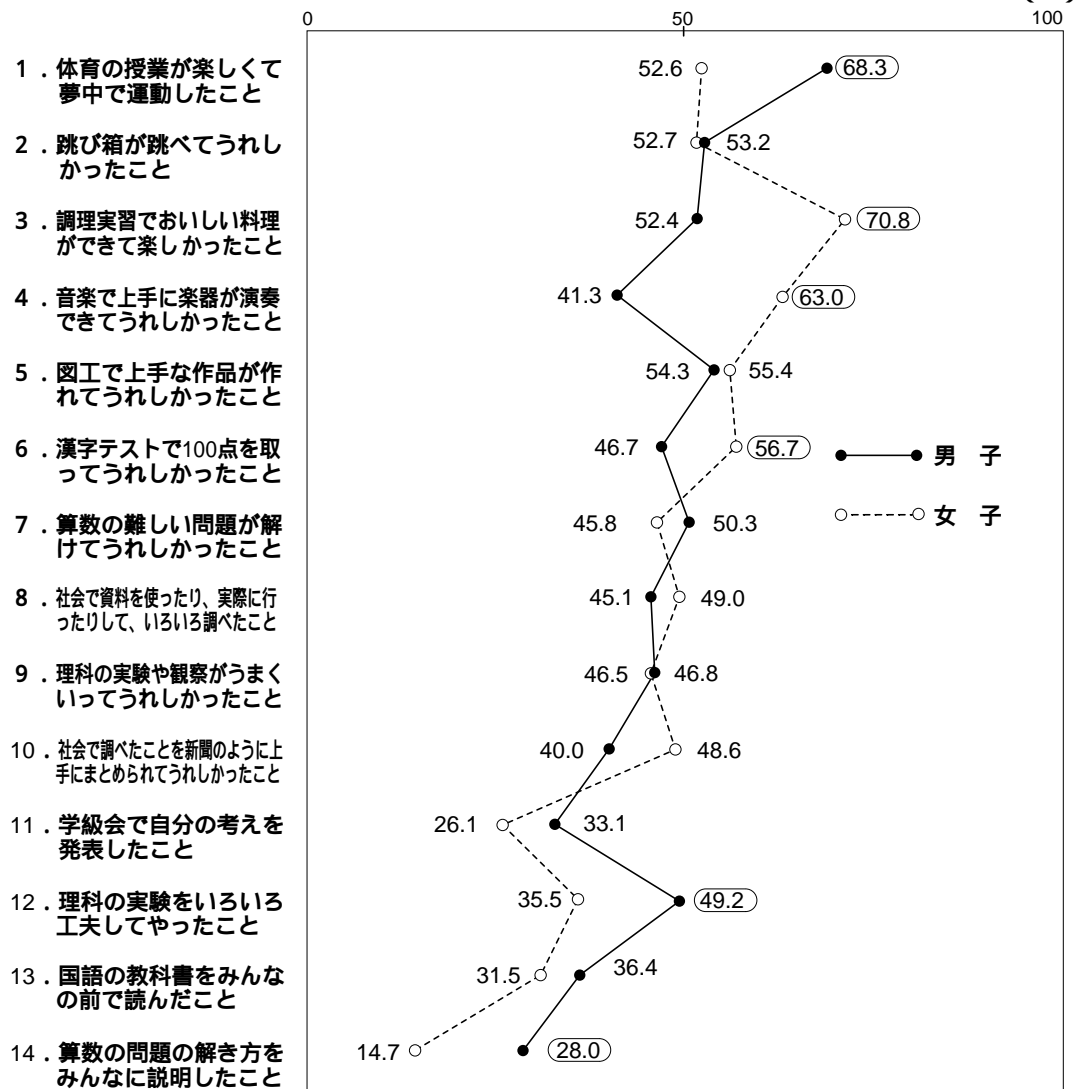
めて発表する」24%、「算数のテスト」23%、「作文を書く」22%、「算数の文章問題を解く」20%、「農業や工業の勉強」17%である。「あまり」を合わせると、4～5割の子どもたちは、こうした学習には楽しさを感じていない。

図7は、性別で楽しさを比較した結果である。「サッカーやバスケットボール」「算数の文章問題を解く」「算数のテスト」は男子が、

「歌や楽器の演奏」「調理実習」は女子の数値が高く、差が顕著にみられる。

このようにみえてくると、子どもたちは自分の体を動かすことに楽しさを感じていることがわかる。そうした意味では、学校を楽しいものにするためには、子どもの活動性を高める努力が必要なのかもしれない。

図6 授業での体験 × 性



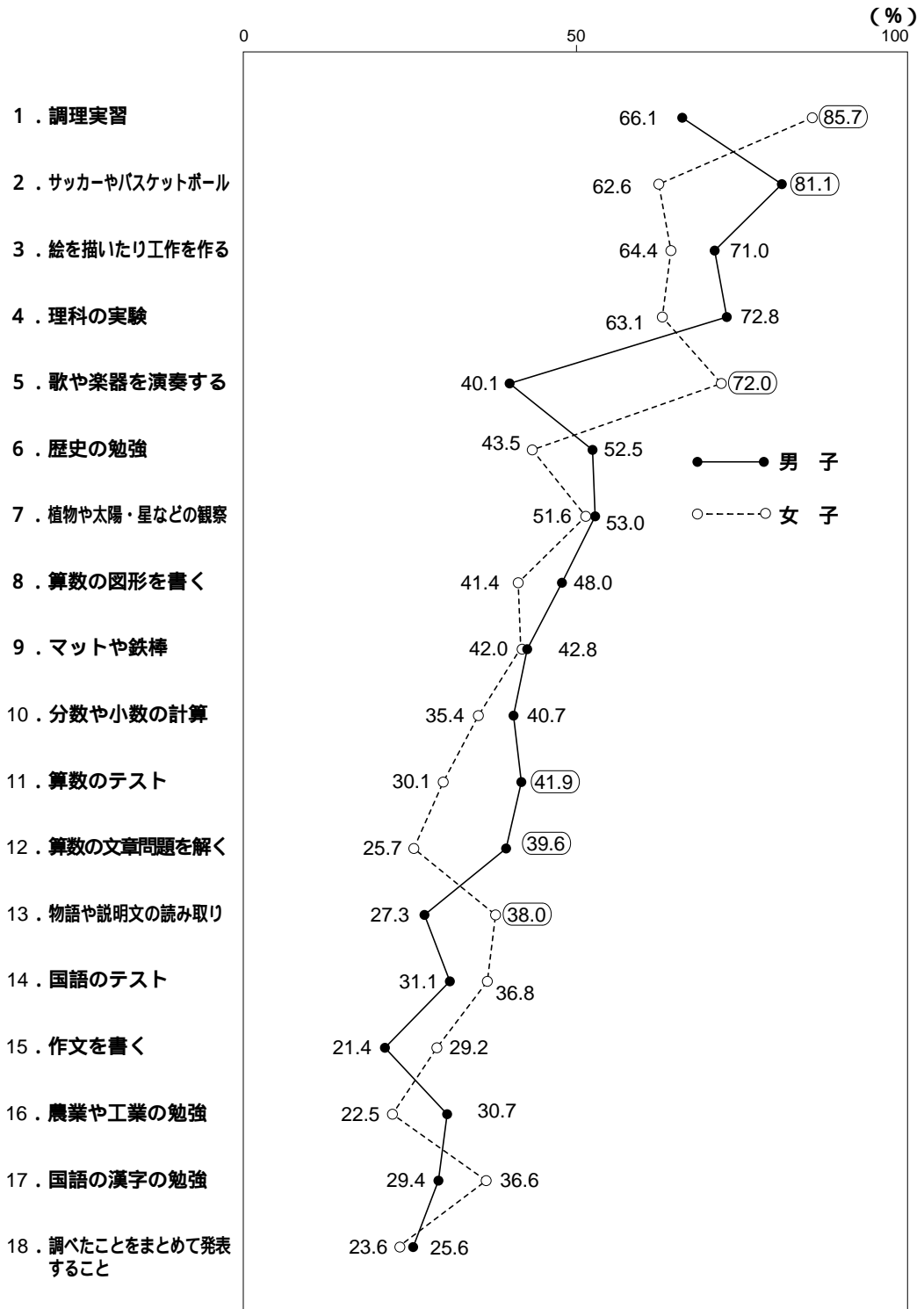
「しよっちゅう」+「わりと」ある割合
 ○は10%以上差のある項目

表2 学習の楽しさ

(%)

	とても 楽しい	わりと 楽しい	少し 楽しい	あまり 楽しくない	ぜんぜん 楽しくない
1. 調理実習	① 52.8	23.2	14.7	5.5	3.8
2. サッカーやバスケットボール	② 52.4	19.3	14.6	7.9	5.8
3. 絵を描いたり工作を作る	③ 42.8	25.0	18.4	7.7	6.1
4. 理科の実験	④ 38.6	29.3	17.8	8.7	5.6
5. 歌や楽器を演奏する	⑤ 34.2	22.5	20.8	12.4	10.1
6. 歴史の勉強	27.5	20.5	21.6	16.7	13.7
7. 植物や太陽・星などの観察	26.8	25.4	23.0	14.2	10.6
8. 算数の図形を書く	22.8	21.8	22.8	18.9	13.7
9. マットや鉄棒	22.7	19.8	24.3	18.1	15.1
10. 分数や小数の計算	19.8	18.2	23.5	21.6	16.9
11. 算数のテスト	18.1	17.8	19.8	21.7	② 22.6
12. 算数の文章問題を解く	17.1	15.5	21.6	26.3	④ 19.5
13. 物語や説明文の読み取り	14.9	17.9	28.1	24.6	14.5
14. 国語のテスト	13.7	20.3	25.9	23.8	16.3
15. 作文を書く	12.8	17.7	22.6	24.7	③ 22.2
16. 農業や工業の勉強	12.1	14.4	30.5	25.8	⑤ 17.2
17. 国語の漢字の勉強	11.8	20.7	29.1	26.0	12.4
18. 調べたことをまとめて発表すること	11.0	13.5	25.3	26.7	① 23.5

図7 学習の楽しさ × 性



「とても」+「わりと」楽しい割合
 ○ は10%以上差のある項目

人間関係の様子)))

1) 友だち関係

子どもたちの一日の大半は、学校の授業で拘束される。これまでふれてきたように授業に夢中になって勉強することに、楽しさやうれしさを感じている子どもたちは決して多くない。それに対し、子どもたちの9割は休み

時間を楽しんでいると感じている。この時間帯の子どもは、教師からも学習からも解放され、子ども同士でふれあうことができる。

表3には友だちの人数を尋ねた結果を示した。「一緒にいて疲れない友だち」が「たくさんいる」子は37%、少なくとも1人以上いる子は9割を超す。「いつも一緒に遊べる

表3 友だちの人数

(%)

	いない	1人 いる	2、3人 いる	5人くらい いる	10人くらい いる	たくさん いる
1. 一緒にいて疲れない友だち	9.2	8.8	19.6	17.5	8.4	36.5
2. いつも一緒に遊べる友だち	8.6	7.2	24.8	20.9	8.6	29.9
3. 困っているとき、相談にのってくれる友だち	14.6	11.1	36.6	18.1	4.2	15.4
4. 宿題や勉強を教えてもらえる友だち	23.9	11.4	34.9	13.9	4.3	11.6
5. マンガやゲームソフトを自由に 使わせてくれる友だち	31.1	14.4	26.0	10.2	4.8	13.5
6. 優越感もてる友だち	37.2	13.3	23.0	12.1	4.2	10.2
7. 運動や成績でライバルになる友だち	44.5	15.0	26.5	7.4	1.4	5.2

友だち」も9割以上の子が1人以上いると答えている。一方、「優越感もてる友だち」「運動や成績でライバルになる友だち」が「いない」子はほぼ4割。表は省略したが、性別では、男子は「困っているとき、相談にのってくれる友だち」「宿題や勉強を教えてもらえる友だち」、女子は「運動や成績でライバルになる友だち」が「いない」割合が高い。

それでは子どもたちは、休み時間をどのように過ごしているのだろうか。表4では休み時間の過ごし方を尋ねた。「とてもよく・わりとしている」割合を確かめてみると、「友だち

と外で遊ぶ」63%、「教室でおしゃべりしている」51%である。昼休みなど休み時間の長さとの関係もあろうが、半数を超える子が友だちと外で遊ぶか、教室でおしゃべりをして過ごしている。一方で、「校庭でみんなが遊んでいるのを見ている」ことを「とてもよく・わりとしている」子は11%、「ときどきしている」を合わせて28%になる。また、「教室で1人で遊んでいる」子は15%と、友だちと遊ばない子の存在も目を引く。さらに「保健室にいる」が「とてもよく・わりとしている」3%、「ときどきしている」を合わせるとほぼ1割に達す

表4 休み時間の過ごし方

	(%)				
	とてもよく している	わりと している	ときどき している	あまり していない	ぜんぜん していない
1. 友だちと外で遊ぶ	40.1	22.4	19.9	10.9	6.7
	62.5				
2. 教室でおしゃべりしている	24.1	26.8	23.3	14.1	11.7
	50.9				
3. 階段や廊下で遊んでいる	5.3	9.2	19.6	24.1	41.8
	14.5				
4. 他のクラスに行って遊んでいる	3.5	5.4	12.5	16.8	61.8
	8.9				
5. 校庭でみんなが遊んでいるのを見ている	3.4	7.2	17.2	28.0	44.2
	10.6				
6. 教室で1人で遊んでいる	2.5	3.4	9.5	23.3	61.3
	5.9				
7. 先生のまわりにいる	1.4	3.8	16.0	31.6	47.2
	5.2				
8. 保健室にいる	0.8	2.1	6.6	18.7	71.8
	2.9				
9. 階段や廊下で1人で遊んでいる	0.9	0.8	2.1	10.3	85.9
	1.7				

る。保健室が休み時間の居場所となっている子の存在も無視できない数値である。

2) 先生との関係

次に担任との関係をみてみよう。表5によれば、「先生からほめられてうれしかった」が「とてもある」と答えた子は11%、「わりと」を合わせ3割。「がんばれと励まされたり、声をかけられてうれしかったこと」は2割にすぎない。それとは逆に「ぜんぜんない」子も2割を超え、担任との関係の希薄さがうかがえる。とにかく「先生から励まされたこ

とがない」子が「あまり・ぜんぜん」で50%、「声をかけられたことがない」子が同じく57%と、なんとも気にかかる数値である。

表6に、担任の先生といるときの気持ちを示した。「とてもある」の数値でみると、最も高いのは「先生から自分がどうみられているか、気になる」割合で11%、「わりと」を合わせると24%。次いで「先生に自分の思っていることをうまく言えない」(「とても」9%)と答えた子は「わりと」を合わせると21%である。いずれにせよ「先生から信頼されている」と思えない子どもが59%、「先生

表5 担任の先生から言われたりされたりしたときの気持ち

	(%)				
	とてもある	わりとある	少しある	あまりない	ぜんぜんない
1. 先生からほめられてうれしかった	11.1	22.2	36.7	17.7	12.3
	33.3				
2. 「がんばれ」と励まされてうれしかった	8.7	13.1	28.2	27.3	22.7
	21.8			50.0	
3. 先生から声をかけられてうれしかった	6.1	11.7	25.6	31.1	25.5
	17.8			56.6	
* 4. 先生から叱られて悲しかった	5.7	8.2	24.3	34.5	27.3
	13.9				
* 5. 先生から無視されて悲しかった	2.1	2.0	8.4	28.1	59.4
	4.1				

*はネガティブな項目

のそばで安心できる」と思えない子も61%に達する。

図8は、「担任に自分がどうみられているか気になる」を性別に示した。ぜんぜん気にならないと思っている男子は34%、女子26%で、女子の方が先生からどうみられているか気にする傾向が強い。

子どもたちが担任の様子をうかがい、担任に思っていることをうまく伝えられないのはなぜだろうか。担任が子どもたちの心をつかんでいない背景はさまざまに考えられるが、その1つに評価が観点別評価となって、試験

の結果よりも授業中の態度や、子どもたちの関心の行方にウエイトが置かれるようになったのも一因であろう。これは教師にとっても、試験の結果で評価するより、はるかに難しいことである。教師はいろいろな場面を設定して、子どもたちの態度や関心、意欲をみようとする。子どもたちは、担任から常に評価の対象として見られていることを敏感に受けとめているのではないだろうか。保健室に居場所を求めたり、図書室や飼育動物のそばでホッとしたり、担任とかかわりのない場で居心地のよさを見つけようとするのもうなずける

表6 担任の先生といるときの気持ち

	(%)				
	とてもある	わりとある	少しある	あまりない	ぜんぜんない
1. 先生から信頼されていると思う	3.2	10.2	28.1	34.3	24.2
	13.4				
2. 先生のそばにいと安心する	6.2	10.2	23.0	30.7	29.9
	16.4				
3. 先生から好かれていると思う	2.1	6.4	19.9	38.4	33.2
	8.5				
* 4. 先生から自分がどうみられているか、気になる	10.9	13.2	22.0	21.0	32.9
	24.1				
* 5. 先生に自分の思っていることをうまく言えない	8.7	12.4	21.2	27.5	30.2
	21.1				
* 6. 先生から無視されていると思う	2.6	3.0	11.1	34.9	48.4
	5.6				

*はネガティブな項目

図8 担任の先生から自分がどうみられているか気になる × 性

	とてもある	わりとある	少しある	あまりない	ぜんぜんない	(%)
男子	8.7	11.7	19.4	26.2	34.0	
女子	8.7	13.1	23.1	28.7	26.4	

気がする。

表7は、担任の先生のイメージである。「楽しい先生」「熱心に勉強を教えてくれる先生」「まちがいを素直にあやまる先生」「心配事は一緒に考えてくれる先生」「子どもの気持ちがわかる先生」が「とても・わりとそう」と感じている子は4～6割。そして「今の担任にな

ってよかったか」と尋ねると、表8によれば、「とてもよかった」28%、「わりとよかった」27%と5割強の子どもたちが担任に満足している。しかし「あまり・ぜんぜんよくなかった」が22%に達することを考えると、理由はともあれ、教師サイドの努力を求めたい気がする。

表7 担任の先生のイメージ

(%)

	とても そう	わりと そう	少し そう	あまり そうでない	ぜんぜん そうでない
1. 楽しい先生	33.6	23.0	21.9	11.9	9.6
2. 熱心に勉強を教えてくれる先生	25.5	27.5	27.6	12.1	7.3
3. まちがいを素直にあやまる先生	23.4	21.2	26.8	15.7	12.9
4. 心配事は一緒に考えてくれる先生	21.6	22.5	26.7	17.2	12.0
5. 子どもの気持ちがわかる先生	21.1	24.9	28.0	15.6	10.4
6. こわい先生	12.9	13.9	23.8	26.6	22.8
7. 自分勝手な先生	7.2	4.7	13.3	28.6	46.2
8. 叱らない先生	4.1	6.9	19.7	34.7	34.6

表8 今の担任の先生になってよかったか × 性

(%)

		とても よかった	わりと よかった	少し よかった	あまり よくなかった	ぜんぜん よくなかった
全 体		27.8	26.5	23.5	11.9	10.3
性 別	男 子	25.7	23.6	25.6	13.5	11.6
	女 子	29.8	29.2	21.5	10.4	9.1

クラスの様子)))

これまでふれてきたように、担任との関係でも子どもたちは授業場面であまり楽しさを感じていない。そこで、次にクラスの様子を

みることにしよう。表9によれば、自分のクラスを「楽しいクラス」とらえている子どもは、「とてもそう」54%、「わりと」を合

表9 クラスのイメージ

(%)

	とても そう	わりと そう	少し そう	あまり そうでない	ぜんぜん そうでない
1. 楽しいクラス	53.6	27.2	12.6	4.4	2.2
	80.8				
2. よく遊ぶクラス	43.5	29.0	18.4	6.8	2.3
	72.5				
3. 男女仲のよいクラス	17.2	16.1	25.1	23.5	18.1
	33.3				
4. 授業中、よく手をあげるクラス	10.8	20.9	33.6	25.5	9.2
	31.7				
5. まとまりのあるクラス	10.6	18.1	32.2	24.5	14.6
	28.7				
6. よく勉強するクラス	5.4	17.4	35.8	30.2	11.2
	22.8				

表10 今のクラスになってよかったか × 性

(%)

		とても よかった	わりと よかった	少し よかった	あまり よくなかった	ぜんぜん よくなかった
全 体		36.9	28.1	20.7	9.5	4.8
性 別	男 子	36.2	28.2	21.4	8.4	5.8
	女 子	37.5	28.1	20.0	10.5	3.9

わせると8割に達する。「よく遊ぶクラス」は7割である。そして、クラスへの満足度は「とてもよかった」37%、「わりと」を含め65%の子どもがクラスへの満足感を抱いている(表10)。

ここで、子どもたちが学校にいるときの気持ちを探ってみよう。表11によれば、最も高い数値を示すのは「友だちから自分がどう

みられているか、気になる」で「とてもよくある」18%、「わりと・ときどき」を含めると6割近い子どもたちが友だちの目を意識している。この調査のためにヒアリングした折、子どもたちから「学校では友だちと同じようにしている」「友だちより目立たないようにしている」「目立つ文房具などの持ち物は持っていないが、友だちが持っている物は持

表11 学校にいるときの気持ち

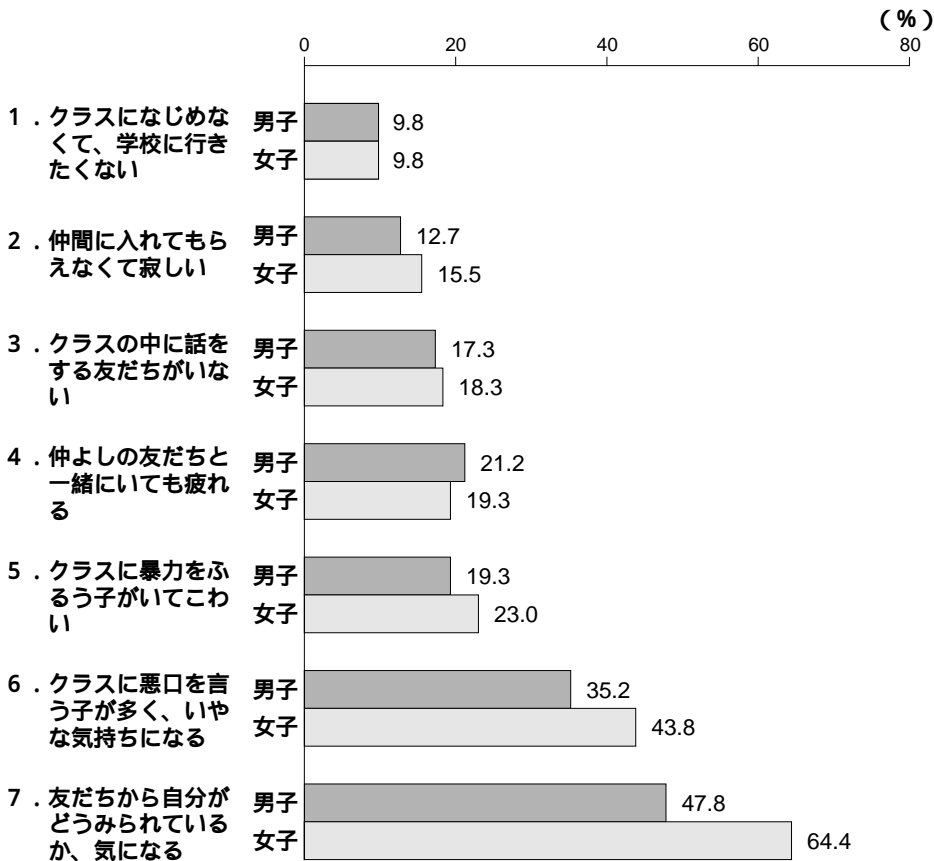
(%)

	とてもよくある	わりとある	ときどきある	あまりない	ぜんぜんない
1. クラスになじめなくて、学校に行きたくない	1.7	1.4	6.8	16.5	73.6
2. 仲間に入れてもらえなくて寂しい	2.0	2.7	9.3	25.2	60.8
3. クラスの中に話をする友だちがいない	3.9	4.4	9.5	22.4	59.8
4. 仲よしの友だちと一緒にいても疲れる	3.0	4.5	12.6	21.4	58.5
5. クラスに暴力をふるう子がいてこわい	5.7	4.7	10.8	21.8	57.0
6. クラスに悪口を言う子が多く、いやな気持ちになる	9.9	8.9	20.7	23.1	37.4
7. 友だちから自分がどうみられているか、気になる	17.6	14.4	24.2	17.5	26.3

ちたい」「友だちが内緒話しているとき、自分の悪口を言っているのではないかと気になる」「友だちが楽しそうに話しているそばを通るのはいやだ」など、友だちを意識した言葉をたくさん耳にした。子どもたちは休み時間を最も楽しい時間と考えているが、楽しさを維持するために友人関係にはかなり気を遣っているように思える。

図9・10は友だちとの関係を性別で比較した傾向である。図によれば、「友だちから自分がどうみられているか、気になる」「クラスに悪口を言う子が多く、いやな気持ちになる」で女子の数値が高く、女子の方に友だち関係の不安定さや難しさが感じられる。

図9 学校にいるときの気持ち × 性



「とてもよく」、「わりと」、「ときどき」ある割合

図10 友だちから自分がどうみられているか気になる × 性

	とてもよくある	わりとある	ときどきある	あまりない	ぜんぜんない	(%)
男子	15.5	11.7	20.6	16.3	35.9	
女子	19.7	17.0	27.7	18.6	17.0	

ここまでは授業での体験、学習の楽しさ、友だちや担任との関係、クラスの様子をみてきたが、子どもたちの学校での楽しさをトータルでみると、表12によれば、「とても楽しみ」24%、「わりと」を合わせ、学校を楽しみにしている子は57%。逆に、「ぜんぜん楽しみでない」7%、「あまり」を合わせるとほぼ2割の子が学校を楽しみ場所とは思って

いない。性別では、女子の方が学校を楽しみにしている割合が高い。

さらにいえば「少し楽しみ」は楽しくないの部類に入られるので、それを加算すると学校が楽しくない子は、43%と4割を超える。子どもたちの学校生活は、充足感より不安や緊張感を伴っているようである。

表12 学校に行くのが楽しみか × 性

		(%)				
		とても 楽しみ	わりと 楽しみ	少し 楽しみ	あまり 楽しみでない	ぜんぜん 楽しみでない
全 体		23.9	33.1	24.8	10.9	7.3
性 別	男 子	22.2	28.7	28.6	10.8	9.7
	女 子	25.7	37.2	20.9	11.1	5.1

学業成績との関連)))

それでは子どもたちに学校での充足感をもたらす要因は何だろうか。学校生活の大半は学習の時間である。それだけに授業が理解できるかは学校生活の充足感に大きくかかわってくると考えられる。そこで、子どもたちが自己評価した「成績」を上位者（上の方・中の上）31%、中位者（まん中くらい）37%、下位者（中の下・下の方）32%の3群に分類し、学業成績が学校生活に及ぼす影響を分析することにした。具体的には、学習場面での体験や楽しさ、人間関係、クラスの様子などを成績と友人関係のクロス集計の数値でみていくことにしたい。

表13は、授業での体験を学業成績別に確かめたものである。成績上位者は「1. 漢字テストで100点を取ってうれしかったこと」から「14. 国語の教科書をみんなの前で読んだこと」まですべての項目で、楽しく夢中になったり、うまくできてうれしかったり、いろいろ工夫して実験したり、みんなの前で発表したりと、さまざまな体験を持っている。そして下位者の数値とに大きな差がみられる。特に「漢字テストで100点を取ってうれしかったこと」が「しょっちゅう・わりとある」子が8割近くおり、「算数の難しい問題が解けてうれしかったこと」「体育の授業が楽しくて夢中で運動したこと」「調理実習でおいしい料理ができて楽しかったこと」「図工で上手な作品が作れてうれしかったこと」も7割近くと、授業中の充足感が高い。一方、上位者と下位者との差が少ない項目は表中の右欄のように、「調理実習でおいしい料理ができて楽しかったこと」「跳び箱が跳べう

れしかったこと」「体育の授業が楽しくて夢中で運動したこと」「音楽で上手に楽器を演奏できてうれしかったこと」など、実技科目に限られている。

表14は、学習の楽しさを学業成績別に確かめた結果である。成績上位者は「1. 調理実習」から「18. 作文を書く」まで、国語や算数のテストも含めてすべての学習を楽しんでいる割合が高い。中でも「調理実習」「理科の実験」「サッカーやバスケットボール」「絵を描いたり工作を作る」は7~8割、「歌や楽器を演奏する」「算数の図形を書く」「歴史の勉強」「算数のテスト」は6割を超える子どもたちが楽しいと答えている。

それに対し下位者では、「調理実習」「サッカーやバスケットボール」「絵を描いたり工作を作る」「理科の実験」が楽しいと答えた子が6割を超えるが、「調べたことをまとめて発表する」「算数の文章問題を解く」ことが楽しいと感じる子は1割。「国語の漢字の勉強」「作文を書く」「物語や説明文の読み取り」「国語のテスト」「分数や小数の計算」なども楽しい割合は2割にすぎない。上位と下位との差が示すように、成績下位者は体育や調理実習、図工の授業を楽しみにしている。しかし残念ながら、そうした時間は1週間に何時間もない。一日の授業の大半が算数、国語、社会、理科で占められている現状では、一日の中で授業や学習が楽しかったと感じる時間は極めてわずかであろう。そう考えると、算数や国語の時間に工夫をこらし、下位者の子どもに充足感をもてるように、授業改革を試みる必要がある。

表13 授業での体験 × 成績

(%)

	上	中	下	上 - 下
1. 漢字テストで100点を取ってうれしかったこと	① (75.5)	54.7	25.1	50.4
2. 算数の難しい問題が解けてうれしかったこと	② (68.2)	47.3	28.3	39.9
3. 体育の授業が楽しくて夢中で運動したこと	② (68.2)	62.6	② 50.1	18.1
4. 調理実習でおいしい料理ができて楽しかったこと	④ (67.5)	62.9	① 54.5	13.0
5. 図工で上手な作品が作れてうれしかったこと	⑤ (65.3)	54.6	③ 45.3	20.0
6. 跳び箱が跳べてうれしかったこと	(61.3)	54.4	④ 43.6	17.7
7. 音楽で上手に楽器が演奏できてうれしかったこと	(61.3)	52.5	⑤ 42.0	19.3
8. 社会で資料を使ったり、実際に行ったりして、いろいろ調べたこと	(60.4)	46.9	33.8	26.6
9. 社会で調べたことを新聞のように上手にまとめられてうれしかったこと	(60.0)	46.9	26.5	33.5
10. 理科の実験や観察がうまくいってうれしかったこと	(57.5)	49.6	32.5	25.0
11. 理科の実験をいろいろ工夫してやったこと	(57.3)	42.0	27.3	30.0
12. 学級会で自分の考えを発表したこと	(47.6)	26.5	15.5	32.1
13. 算数の問題の解き方をみんなに説明したこと	(45.9)	13.8	5.8	40.1
14. 国語の教科書をみんなの前で読んだこと	(44.8)	32.7	21.5	23.3

「しゅっちゅう」+「わりと」ある割合
 ○ は最大値 ◊ は最小値

表14 学習の楽しさ × 成績

	(%)			
	上	中	下	上 - 下
1. 調理実習	① (81.8)	76.8	① 69.4	12.4
2. 理科の実験	② (78.7)	65.2	④ 60.6	18.1
3. サッカーやバスケットボール	③ (76.4)	73.8	② 65.0	11.4
4. 絵を描いたり工作を作る	④ (73.0)	68.8	③ 61.1	11.9
5. 歌や楽器を演奏する	⑤ (65.2)	58.2	⑤ 46.6	18.6
6. 算数の図形を書く	(64.4)	42.1	28.8	35.6
7. 歴史の勉強	(61.2)	45.0	33.3	27.9
8. 算数のテスト	(60.7)	32.9	16.4	44.3
9. 植物や太陽・星などの観察	(59.5)	51.6	46.5	13.0
10. 算数の文章問題を解く	(58.7)	27.5	13.0	45.7
11. 分数や小数の計算	(55.2)	37.8	21.1	34.1
12. マットや鉄棒	(49.1)	44.7	33.7	15.4
13. 農業や工業の勉強	(48.7)	24.7	16.9	31.8
14. 国語のテスト	(47.8)	34.3	20.6	27.2
15. 物語や説明文の読み取り	(44.4)	34.5	20.0	24.4
16. 調べたことをまとめて発表すること	(42.4)	21.0	11.1	31.3
17. 国語の漢字の勉強	(40.2)	35.6	21.6	18.6
18. 作文を書く	(39.0)	30.5	22.5	16.5

「とても」+「わりと」楽しい割合
 () は最大値 ~~~ は最小値

では、担任の先生との関係はどうだろうか。表15によれば、成績上位者は先生から信頼され、先生のそばにいと安心し、好かれていると思っている。しかし、先生からどう思われているか気になる割合も高い。一方、下位者は先生に自分の思っていることがうまく伝えられないもどかしさを感じている。

次に、表16で担任の先生との接触体験をみると、成績上位者は「ほめられたり、がんばれと励まされたり、声をかけられてうれしかった」体験を多くもっており、下位者と比較するとほぼ2倍の差がみられる。逆に、下位者は「先生から叱られて悲しかった」とマイナスの体験が多い。

表15 担任の先生といるときの気持ち × 成績

(%)

	上	中	下
1. 先生から信頼されていると思う	24.9	10.4	5.6
2. 先生のそばにいと安心する	20.8	15.8	12.8
3. 先生から好かれていると思う	15.4	6.2	5.5
* 4. 先生から自分がどうみられているか、気になる	29.6	21.6	22.3
* 5. 先生に自分の思っていることをうまく言えない	20.0	19.0	25.1
* 6. 先生から無視されていると思う	7.2	4.2	6.0

「とても」+「わりと」ある割合
 ○ は最大値
 * はネガティブな項目

表16 担任の先生から言われたりされたりしたときの気持ち × 成績

(%)

	上	中	下
1. 先生からほめられてうれしかった	48.2	30.7	21.7
2. 「がんばれ」と励まされてうれしかった	29.1	20.8	15.7
3. 先生から声をかけられてうれしかった	25.1	14.9	13.9
* 4. 先生から叱られて悲しかった	12.3	13.1	16.7
* 5. 先生から無視されて悲しかった	5.8	2.6	4.2

「とても」+「わりと」ある割合
 ○ は最大値
 * はネガティブな項目

このような担任の先生との接触体験は、担任のイメージにも影響を与え、成績上位者は「熱心に勉強を教えてくれる先生」「まちがいを素直にあやまる先生」「心配事は一緒に考えてくれる先生」「子どもの気持ちがわかる先生」と担任に対しプラスのイメージが高い(表17)。

次に友だち関係をみてみよう。表18によ

れば、成績下位者は「一緒にいて疲れない友だち」「いつも一緒に遊べる友だち」「困っているとき、相談にのってくれる友だち」「優越感もてる友だち」「運動や成績でライバルになる友だち」が「いない」割合が高い。特に、困っているとき、相談にのってもらいほど親しい友だちや優越感もてる友だち、

表17 担任の先生のイメージ × 成績

(%)

	上	中	下
1. 楽しい先生	57.8	59.0	53.4
2. 熱心に勉強を教えてくれる先生	58.4	52.2	47.9
3. まちがいを素直にあやまる先生	49.5	42.7	41.9
4. 心配事は一緒に考えてくれる先生	47.8	43.4	42.9
5. 子どもの気持ちがわかる先生	50.8	46.0	41.0
6. こわい先生	26.3	26.6	27.9
7. 自分勝手な先生	14.0	9.8	12.5
8. 叱らない先生	11.9	10.0	11.1

「とても」+「わりと」その割合
○は最大値

ライバルになる友だちの少なさが目を引く。

勉強の苦手な子が授業が苦手というのは理解できる。しかし、友だち関係は成績とは無縁であろう。だが実際には成績の良し悪しは子どもたちの友だち関係に影響を及ぼしているように思える。表19は、休み時間の過ごし方である。授業中の体験や学習の楽しさ、担任との接触体験ほど、成績の上位者と下位者との差は認められない。休み時間は授業や担任から解放され、思い思いに楽しく過ごすことができる時間になっているのだろうか、少しホッとさせる数値である。といっても、「校庭でみんなが遊んでいるのを見ている」子が下位

者に多い。勉強の苦手な子が学級で孤立していることを物語る数値である。

それでは、学校にいるときの気持ちを表20でみてみよう。成績下位者は「クラスになじめなくて、学校に行きたくない」「仲間に入れてもらえなくて寂しい」「クラスの中に話をする友だちがいない」「クラスに暴力をふるう子がいてこわい」「友だちから自分がどうみられているか、気になる」ことが「とてもよく・わりと・ときどきある」割合が高く、学校生活に不安を抱いている様子がうかがえる。

表18 友だちの人数 × 成績

(%)

	上	中	下
1. 一緒にいて疲れないうだち	6.9	7.6	12.8
2. いつも一緒に遊べる友だち	7.2	7.4	10.9
3. 困っているとき、相談にのってくれる友だち	11.7	12.4	20.2
4. 宿題や勉強を教えてもらえる友だち	31.4	16.4	24.6
5. マンガやゲームソフトを自由に使わせてくれる友だち	31.8	28.4	33.7
6. 優越感がもてる友だち	24.7	38.6	47.3
7. 運動や成績でライバルになる友だち	28.6	44.6	59.1

「いない」割合
 は最大値

表19 休み時間の過ごし方 × 成績

(%)

	上	中	下
1. 友だちと外で遊ぶ	64.6	66.6	56.6
2. 教室でおしゃべりしている	48.1	55.2	48.4
3. 階段や廊下で遊んでいる	15.0	11.6	17.2
4. 他のクラスに行って遊んでいる	10.4	8.8	7.5
5. 校庭でみんなが遊んでいるのを見ている	10.4	9.0	12.2
6. 教室で1人で遊んでいる	5.6	5.2	7.1
7. 先生のまわりにいる	7.9	4.2	3.1
8. 保健室にいる	2.9	2.7	3.0
9. 階段や廊下で1人で遊んでいる	2.2	0.9	2.1

「とてもよく」+「わりと」している割合
 は最大値

表20 学校にいるときの気持ち × 成績

(%)

	上	中	下
1. クラスになじめなくて、学校に行きたくない	9.5	7.4	13.2
2. 仲間に入れてもらえなくて寂しい	12.1	11.2	19.1
3. クラスの中に話をする友だちがいない	14.4	15.2	24.2
4. 仲よしの友だちと一緒にいても疲れる	21.6	17.5	21.5
5. クラスに暴力をふるう子がいてこわい	20.7	19.4	23.4
6. クラスに悪口をいう子が多く、いやな気持ちになる	40.8	37.5	40.2
7. 友だちから自分がどうみられているか、気になる	57.2	52.9	59.2

「とてもよく」+「わりと」+「ときどき」ある割合
 は最大値

次に学校に行く楽しみは、表21によれば、成績下位者では「とても楽しみ」と答えた子が19%、「わりと」を合わせても5割を下回

っている。それに対し成績上位、中位者の6割は「学校に行くのが楽しみ」と答えている。

友がいることの意味)))

では、成績下位の子どもたちは、学校生活に充足感をもてないのだろうか。学校や教室にはさまざまな個性をもった子どもたちが生活している。子どもたちの得意な教科や不得意な教科もさまざまである。人に自慢できる特技や技術をもった子、運動能力が抜群で体育の授業、運動会やクラブ活動で活躍する子、文化祭や音楽会でリーダーとなってクラスを引っ張っていく子どもたちもいるだろう。勉強が苦手でも、人に自慢できる特技や能力があったら、学校はもっと楽しく、充足感が高まるのではないだろうか。

そこで、成績下位者の中で、友人関係の「優越感がもてる友だちがいるか」「運動や成績でライバルになる友だちがいるか」の項目を用いて、他の項目とのクロスを試み、競い合える友だちをもっていることの意味を確かめようとした。そのために、成績との関連が高い授業での体験、学習での楽しさとのクロ

ス集計から成績下位者の充足感を探ってみることにした。

表22で、授業での体験と成績下位者の関係を見てみよう。「優越感がもてる友だち」がいる群といない群で10%以上差がある項目をみると、「理科の実験をいろいろ工夫してやったこと」「社会で資料を使ったり、実際に行ったりして、いろいろ調べたこと」「図工で上手な作品が作れてうれしかったこと」「音楽で上手に楽器の演奏ができてうれしかったこと」「調理実習でおいしい料理ができて楽しかったこと」で差が顕著にみられる。さらに「運動や成績でライバルの友だち」がいる群といない群では「国語の教科書を読んだこと」「社会で資料を使ったり、実際に行ったりして、いろいろ調べたこと」「体育の授業が楽しくて夢中で運動したこと」で差が大きい。


表21 学校に行くのが楽しみ × 成績

	(%)				
	とても 楽しみ	わりと 楽しみ	少し 楽しみ	あまり 楽しみでない	ぜんぜん 楽しみでない
上	27.4	35.2	22.7	8.7	6.0
	62.6				
中	24.9	36.1	24.6	9.0	5.4
	61.0				
下	18.9	27.2	27.3	15.7	10.9
	46.1				

表22 授業での体験 × 成績下位群の友だち関係

(%)

	優越感もてる 友だち		運動や成績でライバル になる友だち	
	いる	いない	いる	いない
1. 国語の教科書をみんなの前で読んだこと	25.3	17.9	27.8	17.0
2. 漢字テストで100点を取ってうれしかったこと	25.9	23.4	28.5	22.6
3. 算数の問題の解き方をみんなに説明したこと	7.2	4.7	8.5	3.9
4. 算数の難しい問題が解けてうれしかったこと	30.9	24.5	43.8	38.9
5. 理科の実験をいろいろ工夫してやったこと	33.8	21.0	25.4	21.1
6. 理科の実験や観察がうまくいってうれしかったこと	35.2	29.4	35.9	30.2
7. 社会で資料を使ったり、実際に行ったりして、いろいろ調べたこと	39.4	28.0	40.4	29.4
8. 社会で調べたことを新聞のように上手にまとめられてうれしかったこと	30.0	22.7	29.6	24.5
9. 図工で上手な作品が作れてうれしかったこと	54.1	35.8	51.4	41.5
10. 音楽で上手に楽器が演奏できてうれしかったこと	46.8	36.2	45.7	39.7
11. 調理実習でおいしい料理ができて楽しかったこと	58.5	48.5	59.3	50.6
12. 体育の授業が楽しくて夢中で運動したこと	52.8	47.3	62.3	41.4
13. 跳び箱が跳べてうれしかったこと	47.7	38.8	47.6	41.3
14. 学級会で自分の考えを発表したこと	18.0	13.4	22.9	20.4

「しょっちゅう」+「わりと」ある割合
 は10%以上差のある項目

次に「学習の楽しさ」ではどうだろうか。表23によれば、「優越感をもてる友だちがいる群」では「算数の図形を書く」「算数のテスト」、「運動や成績でライバルになる友だちがいる群」では「歴史の勉強」「農業や工業の勉強」「サッカーやバスケットボール」「マットや鉄棒」「算数のテスト」で「とても・わりと楽しい」と答えた子が多い。優越感をもてる友だちやライバルになる友だちがいると、体育や音楽、図工などに加え、算数や算数のテストも楽しくなるらしい。

そこで担任の先生との接触体験をみると、

	(%)			
	優越感をもてる友だち		運動や成績でライバルになる友だち	
	いる	いない	いる	いない
先生にほめられること	27.1	> 16.1	27.7	> 18.0
先生に声をかけられること	16.4	> 11.6	18.9	> 10.3
先生にがんばれと励まされること	19.7	> 11.2	20.8	> 11.9

「とても・わりとある」の割合

優越感をもてる友だちがいたり、ライバルの友だちがいる子の方が担任から声をかけられたり、励まされたり、ほめられたりとポジティブな接触を多くもっている。

このように授業での体験や学習の楽しさ、担任とのポジティブな接触は学校に行く楽しさに影響を与えている。

学校に行く楽しみについては、
〔優越感をもてる友だち〕 (%)

	楽しい		楽しくない	
	とても	わりと	あまり	ぜんぜん
いる	20.3	30.2	15.8	6.9
	50.5		22.7	
いない	18.6	22.9	15.7	15.3
	41.5		31.0	

〔運動や成績でライバルになる友だち〕

いる	23.6	29.3	13.0	7.2
	52.9		20.2	
いない	15.9	25.6	17.2	13.3
	41.5		30.5	

この分析では設問項目の関係から優越感をもてる友だちや、ライバルの友だちがいる子どもを対象をしぼっているが、この結果を参照するなら、友だちの多い子どもの方が仮に勉強が苦手でも学校に行く楽しみを多くもっていることがわかる。

子どもたちの学校生活の充足感は、成績による影響が大きい。さらに、友だち関係の中で「自分の存在への自信」が充足感を高める大きな要因である。そして子どもたちの「自信」を支える教師の存在は大きい。子どもたちが学校生活のさまざまな場面で感じた喜びや楽しさに共感し、励まし、支え、受け入れる教師の存在が、子どもたちの学校生活を充実させ、学習意欲を高め、学校を居心地のよい場所に変えていくのではないだろうか。

表23 学習の楽しさ × 成績下位群の友だち関係

(%)

	優越感もてる友だち		運動や成績でライバルになる友だち	
	いる	いない	いる	いない
1. 国語の漢字の勉強	23.2	20.3	25.6	18.9
2. 作文を書く	27.0	18.3	22.3	22.4
3. 物語や説明文の読み取り	22.6	17.5	20.7	19.2
4. 分数や小数の計算	23.3	20.7	25.7	18.3
5. 算数の図形を書く	34.1	22.0	34.6	24.7
6. 算数の文章問題を解く	16.5	10.0	17.8	9.4
7. 理科の実験	64.2	56.8	65.3	57.2
8. 植物や太陽・星などの観察	47.9	45.4	51.2	43.5
9. 歴史の勉強	36.8	29.0	41.1	28.3
10. 農業や工業の勉強	20.4	14.2	23.2	12.9
11. サッカーやバスケットボール	68.0	63.5	73.8	59.6
12. マットや鉄棒	37.1	31.5	43.3	27.2
13. 調理実習	74.1	64.9	70.4	68.8
14. 歌や楽器を演奏する	50.8	42.7	51.4	43.3
15. 絵を描いたり工作を作る	64.4	56.7	65.1	58.5
16. 国語のテスト	23.6	17.8	22.8	18.9
17. 算数のテスト	22.2	11.3	22.4	12.2
18. 調べたことをまとめて発表すること	10.6	12.0	12.6	10.0

「とても」+「わりと」楽しい割合
 ○は10%以上差のある項目

3

教室内に居場所を見いだせない子どもたち



教室に居場所のない子どもたち)))

子どもたちは、一日の大半の時間を学校で、そして教室という半閉鎖的な空間で過ごしている。教室が「とてもホッとする」と感じている子は14%、「わりとホッとする」という子は30%と、全体の4割の子どもたちが自分たちの教室を居心地のよい場所と感じている。一方、「あまり・とても落ち着かない」と自分たちの教室であるにもかかわらず、自分の居場所として感じられない子どもたちも2割に迫っている(表24)。

それではどのような要因が、子どもたちにとっての居心地のよさを規定しているのだろうか。子どもたちに、ここは自分の居場所だと感じさせるには何が必要で、何が大切なのだろうか。

そこで本章では、教室で「とても・わりとホッとする」子どもたちを、「教室に居場所のある群」、教室では「あまり・とても落ち着かない」子どもたちを「教室に居場所のない群」として、子どもたちにとって、居場所を規定する要因は何かを探っていくことにする。

1) 居心地のよい場所(空間的居場所)

教室が落ち着かないと感じている子どもたちにとって、学校の中でホッとする場所はどこなのだろう。それとも、学校内のどこにもホッとできる居場所をもてないのだろうか。

図11、表25は、教室に居場所のある・ないによって、子どもたちが、学校のほかの場所ではどのように感じているかを調べたものである。

図から明らかのように、教室に居場所のある群は、「保健室」や「図書室」、「廊下」な

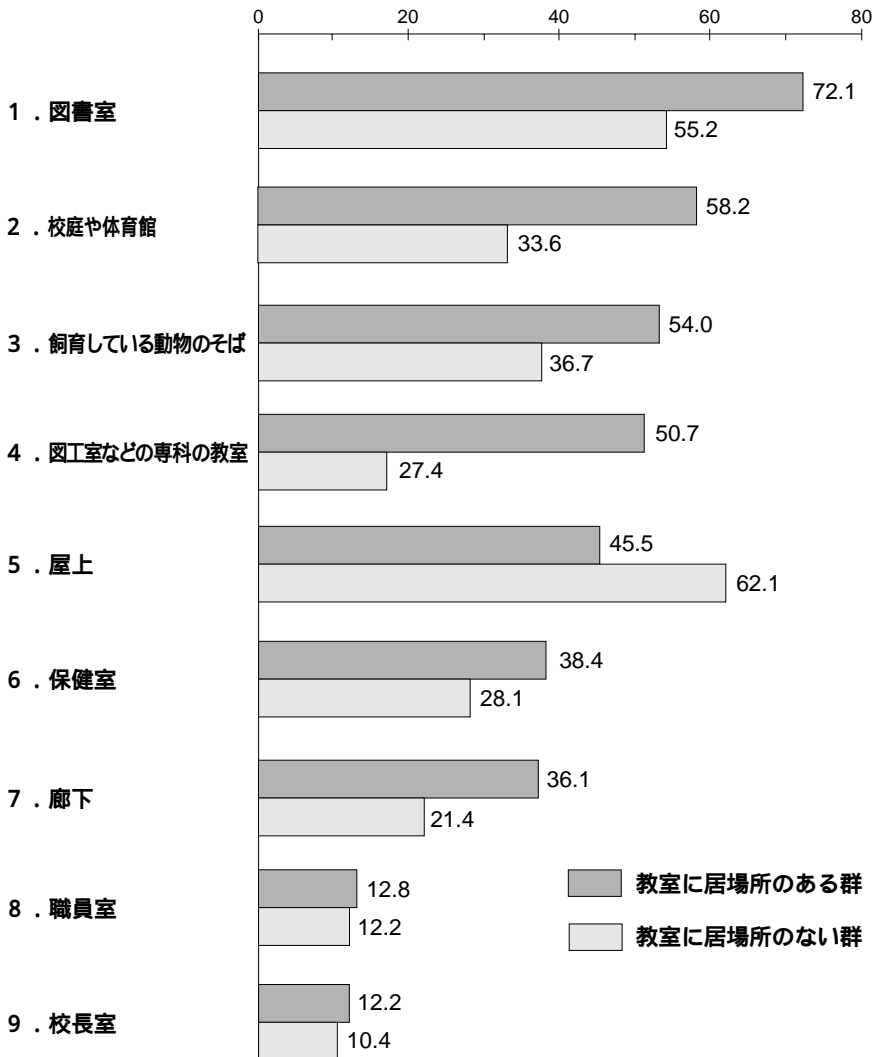
ど教室外でも居心地のよさを感じている。それに対し、教室に居場所のない群では、教室外でも居心地がよい割合が少ない。特に「図工室などの専科の教室」「校庭や体育館」で差が大きい。

表24 教室の居心地のよさ

(%)

とても ホッとする	わりと ホッとする	少し ホッとする	あまり 落ち着かない	とても 落ち着かない
13.6	29.5	39.9	13.0	4.0
<hr style="width: 50%; margin: 0 auto;"/> 43.1			<hr style="width: 50%; margin: 0 auto;"/> 17.0	
教室に居場所のある群			教室に居場所のない群	

図11 学校でホッとする場所 × 教室の居心地のよさ (%)



「とても」+「わりと」ホッとする割合
5. 屋上については、屋上のある者の割合

表25 学校でホッとする場所 × 教室の居心地のよさ

(%)

	とても ホッと する	わりと ホッと する	少し ホッと する	あまり 落ち着 かない	とても 落ち着 かない
1.図書室	46.7 34.2	25.4 21.0	20.2 20.0	6.3 13.8	1.4 11.0
2.校庭や体育館	31.5 19.9	26.7 13.7	25.6 16.8	14.0 35.9	2.2 13.7
3.飼育している動物のそば	33.4 21.7	20.6 15.0	27.3 24.8	12.8 19.6	5.9 18.9
4.図工室などの専科の教室	19.0 10.6	31.7 16.8	29.3 26.4	17.0 29.4	3.0 16.8
5.屋上	31.0 37.9	14.5 24.2	20.4 22.0	23.0 13.2	11.1 2.7
6.保健室	21.3 14.4	17.1 13.7	23.8 24.7	28.8 25.6	9.0 21.6
7.廊下	13.8 8.6	22.3 12.8	37.5 21.7	21.6 36.6	4.8 20.3
8.職員室	5.5 7.3	7.3 4.9	15.6 9.4	44.4 30.2	27.2 48.2
9.校長室	6.4 6.7	5.8 3.7	9.6 7.1	29.7 20.9	48.5 61.6

上段 = 教室に居場所のある群 下段 = 教室に居場所のない群

5.屋上については、屋上のある者の割合

では、教室に居場所がないと感じている子どもたちにとって、学校とそれ以外の場所での居心地はどれくらい違うのだろうか。

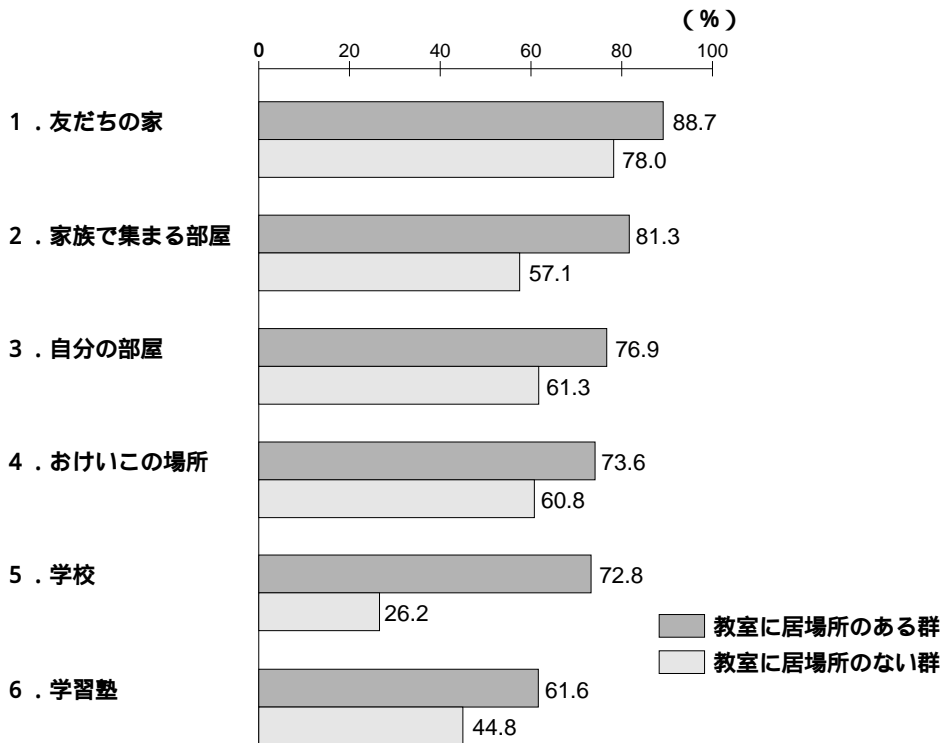
図12、表26は、学校と学校以外の場所での楽しいと感じる割合を示したものである。教室に居場所のない子どもが、学校で「とても楽しい」と感じる割合は11%にとどまる。それに対し学校以外の居心地は「自分の部屋」が37%、「家族で集まる部屋」31%、「友だちの家」44%と、かなり数値が高い。教室に居場所のない子どもたちが、「自分の部屋」や「家族で集まる部屋」だと「とても・わり

と楽しい」と感じる子が6割、「友だちの家」だと8割に達する。教室に居場所を見いだせない子が学校以外に楽しいと感じられる居場所があるのがわかり安心できる。それでも教室に居場所のある子は居場所のない子より、家庭やその他でも楽しさを感じる割合が多い。

2) 居心地のよいとき(心理的居場所)

それでは一日のさまざまな場面の中で、子どもたちは、どんなふうに居心地のよさを感じているのだろうか。教室に居場所のある群

図12 楽しい生活空間 × 教室の居心地のよさ



「とても」+「わりと」楽しい割合

とない群の子どもたちでは、一日のさまざまな場面で感じ方が違うのだろうか。心理的な居場所として一日の生活をみていくことにしよう。

教室に居場所のある群とない群とで、一日の楽しさに違いがみられるかどうかを確かめたのが表27である。表28は、表27を要約したもののだが、朝起きてから夜寝るまで、すべての時間帯で教室に居場所のない子どもの方が楽しさを感じる割合が少ない。特に「授業の始まる前」37%、「掃除の時間」32%、「朝、目がさめたとき」30%、「朝食のとき」

26%、「宿題や勉強をするとき」21%で楽しさを感じられない割合が大きい。

このようにみえてくると、教室に居場所のない子どもは、その他の場所でも居場所を見いだしていない。したがってそうした子は、居場所のない感覚が先にあって、それが教室においても居場所のなさをもたらしたとも考えられる。しかし少なくとも、学校がそうした居場所のない子に、居場所を与えることができなかつたのは確かであろう。

表26 楽しい生活空間 × 教室の居心地のよさ

(%)

	とても楽しい	わりと楽しい	少し楽しい	あまり楽しくない	ぜんぜん楽しくない
1. 友だちの家	53.7	35.0	9.1	1.0	1.2
	43.9	34.1	15.0	5.6	1.4
2. 家族で集まる部屋	52.9	28.4	12.8	4.1	1.8
	30.6	26.5	24.0	9.8	9.1
3. 自分の部屋	46.0	30.9	15.5	5.8	1.8
	36.8	24.5	19.9	10.3	8.5
4. おけいこの場所	43.8	29.8	16.4	5.1	4.9
	36.5	24.3	17.1	12.2	9.9
5. 学校	39.7	33.1	18.5	5.0	3.7
	10.8	15.4	26.6	20.6	26.6
6. 学習塾	30.4	31.2	17.3	11.7	9.4
	22.7	22.1	20.9	9.3	25.0

上段 = 教室に居場所のある群

下段 = 教室に居場所のない群

表27 一日の楽しさ × 教室の居心地のよさ

(%)

	とても 楽しい	わりと 楽しい	少し 楽しい	あまり 楽しくない	ぜんぜん 楽しくない
1. 朝、目がさめたとき	7.8	18.4	27.1	32.4	14.3
	5.2	4.8	13.7	36.1	40.2
2. 朝食のとき	15.8	29.3	33.5	16.9	4.5
	8.0	15.2	29.4	31.1	16.3
3. 授業の始まる前	18.0	27.7	28.5	18.9	6.9
	8.2	11.0	18.2	28.5	34.1
4. 算数の時間	18.1	22.9	21.8	21.3	15.9
	13.9	16.0	13.9	23.0	33.2
5. 休み時間	77.7	15.5	4.9	1.2	0.7
	56.4	26.3	12.5	3.1	1.7
6. 体育の時間	50.4	27.9	13.7	5.7	2.3
	44.0	26.3	14.5	9.3	5.9
7. 給食（昼食）の時間	48.5	32.3	14.5	3.7	1.0
	33.2	30.8	23.9	10.0	2.1
8. クラブ活動の時間	60.5	23.7	11.3	3.3	1.2
	49.2	26.6	12.8	6.6	4.8
9. 掃除の時間	7.8	25.0	34.0	22.4	10.8
	5.2	10.4	19.4	28.4	36.6
10. 家に帰ってから、友だちと遊ぶとき	82.4	13.4	3.0	0.5	0.7
	67.7	20.4	7.0	3.5	1.4
11. 家でマンガを読むとき	40.9	36.9	14.9	4.1	3.2
	42.6	28.5	18.1	4.5	6.3
12. 夕食のとき	37.7	35.9	21.1	4.1	1.2
	24.1	28.0	26.2	13.8	7.9
13. 夜、親と話すとき	32.9	34.6	21.7	5.6	5.2
	16.0	23.3	31.4	16.4	12.9
14. テレビを見るとき	63.4	27.0	7.5	1.4	0.7
	56.8	30.4	10.4	2.4	0.0
15. 宿題や勉強をするとき	5.7	21.3	31.9	26.5	14.6
	2.1	12.7	23.0	28.9	33.3
16. 夜、寝る前	29.6	25.3	26.0	14.1	5.0
	23.0	18.2	21.3	22.0	15.5
17. 寝ているとき	44.1	18.5	18.5	8.3	10.6
	41.4	13.0	13.7	11.2	20.7

上段 = 教室に居場所のある群

下段 = 教室に居場所のない群

表28 一日の楽しさ × 教室の居心地のよさ

(%)

	1. 教室に居場所のある群 (A)	2. 教室に居場所のない群 (B)	(B)-(A)
1. 朝、目がさめたとき	46.7	76.3	29.6
2. 朝食のとき	21.4	47.4	26.0
3. 授業の始まる前	25.8	62.6	36.8
4. 算数の時間	37.2	56.2	19.0
5. 休み時間	1.9	4.8	2.9
6. 体育の時間	8.0	15.2	7.2
7. 給食(昼食)の時間	4.7	12.1	7.4
8. クラブ活動の時間	4.5	11.4	6.9
9. 掃除の時間	33.2	65.0	31.8
10. 家に帰ってから、 友だちと遊ぶとき	1.2	4.9	3.7
11. 家でマンガを読む とき	7.3	10.8	3.5
12. 夕食のとき	5.3	21.7	16.4
13. 夜、親と話すとき	10.8	29.3	18.5
14. テレビを見るとき	2.1	2.4	0.3
15. 宿題や勉強をする とき	41.1	62.2	21.1
16. 夜、寝る前	19.1	37.5	18.4
17. 寝ているとき	18.9	31.9	13.0

「あまり」+「ぜんぜん」楽しくない割合

居心地のよさと学習)))

そこでもう少しくわしく学校内での居心地を学習領域別に確かめてみよう。

表29は、学習に対する楽しさを尋ねたもので、上段は「教室に居場所のある群」、下段は「教室に居場所のない群」である。すべての項目において、「とても楽しい」と感じる割合は「教室に居場所のある群」で多い。そして「教室に居場所のない群」が「ぜんぜん楽しくない」と答えた学習をみると、国語や算数の学習で3割前後の子どもが楽しくないと感じていることが気になる。覚えることや考えたり理解したりすることの多い国語や算数で、自信をなくすことが居心地に影響しているのだろうか。

そこで、学習に対する満足感や自信について尋ねてみることにした。

表30は、学習での満足感を「教室に居場所のある群(上段)」と「教室に居場所のない群」(下段)とで対比させて示したものである。担任の先生からほめられたり、がんばったことがうまくいって満足感を得たことが「ほとんどない」項目をみていくと、「教室に居場所

のない群」では「漢字テストで100点を取ってうれしかったこと」が約2割、「理科の実験や観察がうまくいってうれしかったこと」「社会で調べたことが新聞のように上手にまとめられてうれしかったこと」「跳び箱が跳べてうれしかったこと」が約3割、「学級会で自分の考えを発表したこと」が5割に達する。子どもたちは、多くの時間を教室という閉鎖的な空間の中で学習している。教室に居場所のない子どもたちにとって、授業場面は楽しさを感じられない時間の連続なのであろう。

ちなみに、学習が得意かそうでないかと居場所との関連を調べると、「教室に居場所のある群」では34%、「教室に居場所のない群」では30%の子どもたちが学習が「とても・わりと得意」だと答えている。

そこで、学校生活を構成するもう一つの要因である友だちとの関係、担任との関係を確かめてみよう。

表29 学習の楽しさ × 教室の居心地のよさ

(%)

	とても 楽しい	わりと 楽しい	少し 楽しい	あまり 楽しくない	ぜんぜん 楽しくない
1. 国語の漢字の勉強	15.4 11.0	26.2 14.8	29.0 23.1	22.4 25.9	7.0 25.2
2. 作文を書く	17.6 9.7	22.5 10.0	24.2 17.2	20.5 25.2	15.2 37.9
3. 物語や説明文の読み取り	20.4 12.4	23.2 11.4	27.2 20.0	20.6 26.2	8.6 30.0
4. 分数や小数の計算	24.5 21.0	21.6 10.0	23.4 16.9	17.7 26.2	12.8 25.9
5. 算数の図形を書く	28.4 23.8	23.4 13.8	21.2 19.3	15.9 20.3	11.1 22.8
6. 算数の文章問題を解く	21.4 19.3	16.3 14.8	21.2 15.5	26.6 18.6	14.5 31.8
7. 理科の実験	46.0 36.3	30.3 20.3	13.2 20.3	7.3 10.7	3.2 12.4
8. 植物や太陽・星などの観察	31.6 25.2	27.6 20.8	21.6 17.3	12.0 14.2	7.2 22.5
9. 歴史の勉強	33.2 25.2	21.9 15.2	21.8 16.9	14.0 16.2	9.1 26.5
10. 農業や工業の勉強	15.4 12.5	16.6 11.1	32.2 19.4	24.2 25.3	11.6 31.7
11. サッカーやバスケットボール	57.8 52.2	18.0 13.1	13.4 16.3	6.3 9.7	4.5 8.7
12. マットや鉄棒	26.1 21.5	21.0 15.2	25.5 19.0	15.7 19.0	11.7 25.3
13. 調理実習	61.7 45.0	20.2 21.8	11.5 15.2	4.0 9.7	2.6 8.3
14. 歌や楽器を演奏する	40.9 28.9	24.1 16.6	18.7 20.7	9.1 14.5	7.2 19.3
15. 絵を描いたり工作を作る	48.7 37.7	24.3 20.3	16.8 17.2	6.2 13.8	4.0 11.0
16. 国語のテスト	18.0 11.7	25.8 16.2	24.8 19.0	21.4 20.7	10.0 32.4
17. 算数のテスト	21.7 17.3	20.4 15.6	20.6 13.1	20.1 19.0	17.2 35.0
18. 調べたことをまとめて発表すること	15.4 9.3	17.4 9.7	27.2 16.2	24.2 23.4	15.8 41.4

上段 = 教室に居場所のある群

下段 = 教室に居場所のない群

表30 授業での体験 × 教室の居心地のよさ

(%)

	しょっちゅう ある	わりと ある	たまに ある	ほとんど ない
1. 国語の教科書をみんなの前で 読んだこと	11.0	26.6	48.4	14.0
	10.7	22.8	47.8	18.7
2. 漢字のテストで100点を取って うれしかったこと	24.2	34.2	29.9	11.7
	15.7	27.2	34.5	22.6
3. 算数の問題の解き方をみんな に説明したこと	10.4	14.1	33.8	41.7
	7.7	13.6	24.4	54.3
4. 算数の難しい問題が解けてう れしかったこと	22.4	34.1	33.0	10.5
	18.7	20.1	35.6	25.6
5. 理科の実験をいろいろ工夫し てやったこと	15.3	32.9	35.4	16.4
	12.1	25.7	35.1	27.1
6. 理科の実験や観察がうまくい ってうれしかったこと	21.7	33.7	32.1	12.5
	13.3	19.2	38.5	29.0
7. 社会で資料を使ったり、実際 に行ったりして、いろいろ調 べたこと	22.9	32.4	30.8	13.9
	12.7	26.4	35.9	25.0
8. 社会で調べたことを新聞のよ うに上手にまとめられてうれ しかったこと	20.2	34.2	32.0	13.6
	10.1	23.3	36.3	30.3
9. 図工で上手な作品が作れてう れしかったこと	24.6	36.1	29.0	10.3
	19.1	26.0	32.7	22.2
10. 音楽で上手に楽器が演奏でき てうれしかったこと	26.0	32.6	29.1	12.3
	18.4	27.1	28.1	26.4
11. 調理実習でおいしい料理がで きて楽しかったこと	30.6	39.2	22.9	7.3
	22.9	25.0	35.8	16.3
12. 体育の授業が楽しくて夢中で 運動したこと	39.4	27.2	23.6	9.8
	34.0	22.2	25.0	18.8
13. 跳び箱が跳べてうれしかった こと	32.6	29.9	25.7	11.8
	23.5	18.5	29.0	29.0
14. 学級会で自分の考えを発表し たこと	15.2	19.5	32.5	32.8
	11.8	12.8	25.3	50.1

上段 = 教室に居場所のある群

下段 = 教室に居場所のない群

居心地のよさと友だち関係)))

教室に居場所のない子どもたちの友だち関係はどうなっているのだろうか。

子どもたちに仲よしの友だちが多いかどうか聞いてみると、「とても・わりと多い」が、「教室に居場所のある群」79%、「教室に居場所のない群」63%と16%の差が生じている。そこで、友だちの数を調べてみた。

表31は、「教室に居場所のある群」(上段)、「教室に居場所のない群」(下段)でさまざまな友だちの数を尋ねた結果を示している。「教

室に居場所のない群」では、「困っているとき、相談にのってくれる友だち」のいない子が23%、「宿題や勉強を教えてもらえる友だち」のいない子が35%、「いつも一緒に遊べる友だち」のいない子が14%である。表が示すように、居場所のある子の「いない」割合は、それぞれ10%、20%、5%でいずれも少ない。居心地のよくない子どもは勉強が苦手だけでなく、友だちも見いだせないでいるらしい。

表31 友だちの人数 × 教室の居心地のよさ

(%)

	いない	1人 いる	2、3人 いる	5人くらい いる	10人くらい いる	たくさん いる
1. 運動や成績でライバルになる友だち	43.3	14.1	27.4	7.9	1.9	5.4
	42.8	16.3	25.3	6.6	1.0	8.0
2. 困っているとき、相談にのってくれる友だち	10.4	9.2	35.8	20.3	5.1	19.2
	22.8	14.9	30.8	14.9	3.5	13.1
3. 一緒にいて疲れない友だち	6.7	7.4	18.4	16.4	7.4	43.7
	16.0	9.7	21.2	15.3	8.7	29.1
4. いつも一緒に遊べる友だち	5.4	6.4	23.4	20.3	7.9	36.6
	14.3	11.5	25.5	15.0	7.7	26.0
5. 宿題や勉強を教えてもらえる友だち	20.1	11.2	33.5	15.3	4.3	15.6
	35.3	12.1	33.2	7.6	4.2	7.6
6. 優越感がもてる友だち	31.9	13.7	24.4	12.7	5.3	12.0
	46.6	14.4	13.0	10.2	4.6	11.2
7. マンガやゲームソフトを自由に使わせてくれる友だち	28.9	12.6	26.5	12.2	5.8	14.0
	35.3	17.5	21.0	6.3	5.2	14.7

上段 = 教室に居場所のある群 下段 = 教室に居場所のない群

表32は、教室に居場所のある・ないによって、子どもたちがクラスの中で友だちをどう感じているかを尋ねたものである。「教室に居場所のない群」で「とてもよく・わりとある」をみていくと、「クラスの中に話をする友だちがいない」で10%、「仲間に入れてもらえなくて寂しい」9%、「クラスになじめなくて、学校に行きたくない」が8%と、40人いる学級の中で、3～4人の子が友だ

ちとの関係がもともと教室での居場所をなくしていることがわかる。また、「友だちから自分がどうみられているか、気になる」子が39%もいる。これでは教室が居心地のよい場所になるはずがない。

これを「教室に居場所のある群」「教室に居場所のない群」を要約した結果でみてみよう。表33によれば、「クラスに暴力をふるう子がいてこわい」と感じている子が7%、

表32 クラスの友だち関係 × 教室の居心地のよさ

(%)

	とてもよくある	わりとある	ときどきある	あまりない	ぜんぜんない
1 友だちから自分がどう見られているか、気になる	16.5 24.0	14.4 14.9	24.8 20.5	16.8 11.5	27.5 29.1
2 .クラスに悪口を言う子が多く、いやな気持ちになる	7.5 19.0	8.1 10.3	20.4 16.9	24.2 20.3	39.8 33.5
3 .クラスに暴力をふるう子がいてこわい	4.0 11.1	4.1 3.8	11.5 10.4	20.9 21.2	59.5 53.5
4 .クラスの中に話をする友だちがいない	3.4 4.5	4.5 3.8	7.5 11.0	18.7 25.4	65.9 53.9
5 仲よしの友だちと一緒にいても疲れる	2.6 5.9	3.2 9.5	11.3 15.0	17.9 18.2	65.0 51.1
6 仲間に入れてもらえなくて寂しい	1.1 3.8	2.5 4.8	8.5 10.3	22.5 23.4	65.4 57.7
7 .クラスになじめなくて、学校に行きたくない	0.8 3.8	0.5 4.5	5.5 12.1	12.8 18.7	80.4 60.9

上段 = 教室に居場所のある群

下段 = 教室に居場所のない群

「仲よしの友だちと一緒にいても疲れる」子が10%と、「教室に居場所のない群」の方が上回っている。教室に居場所のない子どもたちは、友だちのよい面をあまり見いだせず接していることがうかがえる。

こうしてみると、教室で居心地のよくない子どもたちは授業だけでなく、友だちとの関係でも楽しさに欠けるようだ。友だちという心理的な居場所が教室の中に見いだせない子

にとって、自分の席があっても、そこは居心地のよい場所とはなりにくいであろう。

それでは子どもたちの楽しみにしている休み時間に教室に居場所のない群はどのように過ごしているのだろうか。教室に居場所のある群とない群を比較してみよう。

表33 クラスの友だち関係 × 教室の居心地のよさ

(%)

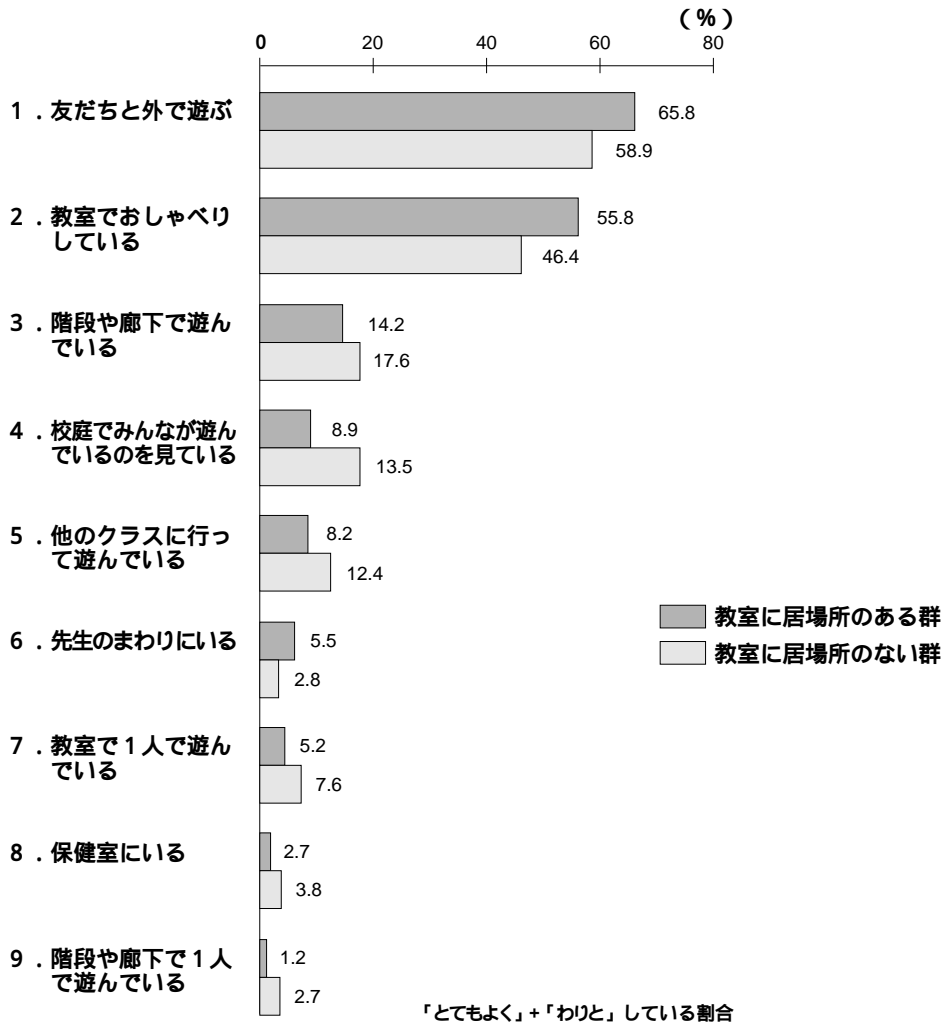
	教室に居場所のある群 (A)	教室に居場所のない群 (B)	(B)-(A)
1. 友だちから自分がどうみられているか、気になる	16.5 14.4 30.9	24.0 14.9 38.9	8.0
2. クラスに悪口を言う子が多く、いやな気持ちになる	7.5 8.1 15.6	19.0 10.3 29.3	13.7
3. クラスに暴力をふるう子がいてこわい	4.0 4.1 8.1	11.1 3.8 14.9	6.8
4. クラスの中に話をする友だちがいない	3.4 4.5 7.9	4.5 5.2 9.7	1.8
5. 仲よしの友だちと一緒にいても疲れる	2.6 3.2 5.8	5.9 9.8 15.7	9.9
6. 仲間に入れてもらえなくて寂しい	1.1 2.5 3.6	3.8 4.8 8.6	5.0
7. クラスになじめなくて、学校に行きたくない	0.8 0.5 1.3	3.8 4.5 8.3	7.0

「とてもよく」+「わりと」ある割合

図13によれば、「友だちと外で遊ぶ」あるいは「教室でおしゃべりしている」子が教室に居場所のある群に多い。それに対し、教室に居場所のない子は外で遊んでいる場合にも「校庭でみんなが遊んでいるのを見ています」

が多い。学習を終えてホッと、みんなが楽しみにしている休み時間でも友だち間に居場所がない子どもたちが、一人で寂しく時間を過ごしている様子がわかる。

図13 休み時間の過ごし方 × 教室の居心地のよさ



居心地のよさと担任との関係)))

それでは教室という空間の中で、子どもたちは担任とどうかかわり、それが居心地のよさにどう影響しているのだろうか。

表34は、教室での居心地のよさと担任とのかかわりについて、ほめられる経験、叱られる経験から分析した結果を示したものである。「教室に居場所のある群」ではほめられ

ることが多く「とても・わりとそう」思う割合が、「教室に居場所のない群」に対して12%も多い。その反対に、「教室に居場所のない群」では、叱られることが多く「とても・わりとそう」思う割合が、「教室に居場所のある群」に比べて14%も多い。

表34 担任の先生との関係 × 教室の居心地のよさ

	(%)				
	とても そう	わりと そう	少し そう	あまり そうでない	ぜんぜん そうでない
担任の先生にほめられることが多い	5.4	13.9	34.6	34.8	11.3
	3.4	3.8	26.2	34.2	32.4
担任の先生に叱られることが多い	4.0	8.9	23.5	43.2	20.4
	13.8	12.8	23.5	36.1	13.8

上段 = 教室に居場所のある群 下段 = 教室に居場所のない群

それでは、子どもたちは、担任の先生のことをどうみているのだろうか。教室に居場所のある群とない群について示したのが表35である。教室に居場所がないと感じている子は、5割近くの子が「心配事を一緒に考えてくれない」、4割の子が「子どもの気持ちをわかってくれない」、2～3割の子が「自分勝手・こわい」先生と感じている。教室で困ったとき頼りにしたい担任は、自分の気持ちを理解してくれない遠い存在のようである。

教室に居場所のある群とない群を要約した

表36をみると、居場所のない群にそういう思いが強いことがみえてくる。

さらに、担任の先生にどう思われているかということで聞いてみた。表37によれば、「教室に居場所のない群」では、「先生から信頼されていると思う」ことが「あまり・ぜんぜんない」という割合が71%、「先生のそばにいと安心する」76%、「先生から好かれている」81%となっている。

教室に居場所のない子どもたちは、本当に困ったとき頼りにしたいはずの先生、がんば

表35 担任の先生のイメージ × 教室の居心地のよさ

(%)

	とても そう	わりと そう	少し そう	あまり そうでない	ぜんぜん そうでない
1. 楽しい先生	44.2 23.8	22.2 20.8	19.2 22.5	7.8 15.6	6.6 17.3
2. 熱心に勉強を教えてくれる先生	33.6 20.3	29.3 23.1	22.4 26.9	9.7 14.7	5.0 15.0
3. 子どもの気持ちがわかる先生	28.5 15.3	31.0 17.1	22.2 24.4	10.3 24.0	8.0 19.2
4. 心配事は一緒に考えてくれる先生	29.6 15.1	25.6 17.6	23.9 21.5	12.7 22.9	8.2 22.9
5. まちがいを素直にあやまる先生	28.7 20.1	24.1 18.7	22.2 25.9	14.5 15.6	10.5 19.7
6. こわい先生	14.5 18.1	13.8 13.6	22.6 22.0	26.0 22.3	23.1 24.0
7. 叱らない先生	4.1 3.8	7.0 8.0	19.8 16.0	36.2 27.5	32.9 44.7
8. 自分勝手な先生	5.7 13.8	3.3 5.9	10.1 16.6	26.5 23.9	54.4 39.8

上段 = 教室に居場所のある群

下段 = 教室に居場所のない群

ったことを認めてもらいたくない先生、その先生との間に大きな距離を感じているのである。これでは教室が居心地のよい場所になるはずがない。

教室に居場所のある群とない群を比べてみると、「先生のそばにいと安心する」割合（とても・わりとある）が「教室に居場所のある群」では23%なのに対して、「教室に居場所のない群」では9%と半分以下に減っている。「先生に信頼されていると思う」割合についても同様である。それに対して、「先

生から無視されていると思う」割合では、「教室に居場所のない群」が13%と居場所のある群を大きく上回り、「先生に自分の思っていることをうまく言えない」も25%と居場所のない群が多くなっている（表38）。担任が子どもたちをどう見つめ、受け入れてあげるかが居心地のよさ、教室での居場所を規定する要因として大きくかかわっていることがわかる。

表36 担任の先生のイメージ × 教室の居心地のよさ

(%)

	教室に居場所のある群 (A)	教室に居場所のない群 (B)	(A)-(B)
1. 楽しい先生	66.4	44.6	21.8
2. 熱心に勉強を教えてくれる先生	62.9	43.4	19.5
3. 子どもの気持ちがわかる先生	59.5	32.4	27.1
4. 心配事は一緒に考えてくれる先生	55.2	32.7	22.5
5. まちがいを素直に謝る先生	52.8	38.8	14.0
6. こわい先生	28.3	31.7	- 3.4
7. 叱らない先生	11.1	11.8	- 0.7
8. 自分勝手な先生	9.0	19.7	- 10.7

「とても」+「わりと」その割合

表37 担任の先生との関係 × 教室の居心地のよさ

(%)

	とてもある	わりとある	少しある	あまりない	ぜんぜんない
*1 .先生から自分がどうみられているか、気になる	11.8 13.1	15.6 12.4	22.2 13.8	20.5 16.6	29.9 44.1
2 .先生のそばにいと安心する	9.7 4.8	13.5 4.1	26.8 14.8	29.1 26.9	20.9 49.4
*3 .先生に自分の思っていることをうまく言えない	8.2 11.7	11.5 13.1	18.7 18.9	28.5 23.4	33.1 32.9
4 .先生から信頼されていると思う	5.1 2.1	14.1 6.9	30.6 20.4	31.4 30.1	18.8 40.5
5 .先生から好かれていると思う	3.0 2.1	9.7 3.8	24.2 12.8	36.4 34.4	26.7 46.9
*6 .先生から無視されていると思う	1.4 7.6	2.9 4.9	10.4 12.8	32.0 30.6	53.3 44.1

上段 = 教室に居場所のある群

下段 = 教室に居場所のない群

*はネガティブな項目

表38 担任の先生との関係 × 教室の居心地のよさ

(%)

	教室に居場所のある群 (A)		教室に居場所のない群 (B)		(A)-(B)
*1 .先生から自分がどうみられているか、気になる	11.8	15.6	13.1	12.4	1.9
	27.4		25.5		
2 .先生のそばにいと安心する	9.7	13.5	4.8	4.1	14.3
	23.2		8.9		
*3 .先生に自分の思っていることをうまく言えない	8.2	11.5	11.7	13.1	- 5.1
	19.7		24.8		
4 .先生から信頼されていると思う	5.1	14.1	2.1	6.9	10.2
	19.2		9.0		
5 .先生から好かれていると思う	3.0	9.7	2.1	3.8	6.8
	12.7		5.9		
*6 .先生から無視されていると思う	1.4	2.9	7.6	4.9	- 8.2
	4.3		12.5		

「とてもよく」+「わりと」ある割合

*はネガティブな項目

まとめに代えて

調査結果を調べながら、いろいろなことを考えた。調査を始めるまで、学校に居心地のよさを感じられない子は勉強が苦手だからだろうと考えていた。逆にいうなら、ほかの場面で居心地をよくすれば、そうした子も学校で充足感をもてるのではないかと思っていた。

しかし調査結果によると、学校に居場所を見いだせない子は、授業だけではなく、友だちも少なかった。

見方を変えると、授業がわからないだけではなく、先生との関係がうまくいかず、友だちもできない、そうした要因が重なり合って、「居場所のなさ」が生じるのであろう。そして困ったことに「学校に行くのが楽しみ」な子どもも「とても」に限ると24%で「わりと」を含めても57%と、6割を下回る。したがって学校に楽しさを感じられない子が4割を超える。

学校は、子どもたちが楽しさを感じていないことを前提として学校作りを考えるべきではないだろうか。アメリカの学校などを訪ねると、「いかにも楽しそう」という印象を受ける。日本の学校も、もう少し楽しさを大事にしてもよいのではないかと思う。

そのためにはどうしたらいいのだろうか。

1. 子どもが自由に動ける時間を大切に

子どもたちは体を動かしたり、自由に考えたりできる時間は楽しいと答えている。それだけに体育や図工、音楽などの授業を大事にしよう。それと同じように国語や算数の時間も、一斉授業を避けて、子どもが主役の授業作りを心がけるべきであろう。

2. 人間関係の絆を育てる

学校の中で友だちや先生の持つ意味は大きい。子どもたちが友だちとふれあえる時間を学校の中にきちんと位置づけよう。授業の班別学習や学校行事の班作りはむろんだが、友だちとのふれあいの時間を多くして、人間関係の絆を強め、人とのつきあい方を学んでいく場面作りも学校の大事な機能であろうと思う。

3. 先生はきめ細かく子どもを見てほしい

担任はどうしても教育対象として子どもを見がちになる。子どもは一人の人間として心をもっている。子どもの心情に目を向け、担任は子どもの心に敏感になってほしい。そして励ましたりほめたりして、いつも子どもを見ていることを、子どもにわからせてほしい。少なくとも小・中学校では、子どもの心を支えることが授業と同じに、あるいはそれ以上に大切な教師の仕事であろう。

〔対談〕

これからの学校教育



対 談

これからの学校教育

下村哲夫氏（早稲田大学教授）

VS

深谷昌志氏（尚美学園短期大学教授）

〔はじめに〕

下村教授は教育法規の第一人者として知られる。しかし、下村教授の研究対象は広く、深い。そうした下村教授にこれからの学校論を尋ねることにした。

（深谷）

「生きて何をするか」が教育の命題

深谷 まず、今回の中教審の改革についての感想をおうかがいしたいのですが。

下村 一次答申の副題にある「子どもたちのために生きる力とゆとりを」はそれなりに21世紀を展望しているようですが、「生きる力」の意味が非常に不透明です。21世紀がどうなるかはっきりしないから、とりあえず「生きる力」をつけていこうとおっしゃっているのなら、一種の開き直りですね。「生きる力」というよりは、本当は「生きて何をするか」が教育の命題ではないでしょうか。つまり、人間として生きて何をするかが問題なのに、あえてそれに触れずに、「生きる力」

だけに絞ったというのは、教育の現状がよほど切羽詰まっている、前途が見えないということだと思います。二次答申は中高一貫制とか、飛び入学とか、非常にエリート教育志向が見えますね。

深谷 一次答申と二次答申の評価が違っていて、二次答申があまり評判がよくないようですが。

下村 一次答申でいくんだったら二次答申は出るべきじゃないし、二次答申のニュアンスだったら、一次答申の内容は変わってくるはずですよ。

深谷 おそらく、そうは言いながらも中高6年制というのは、中学が高校かで始まるんでしょうね。

下村 ⁽¹⁾学校教育法第1条を改正するそうだからね。そうすると今9種類ある学校の種類が10種類になります。私がわからないのは、中高一貫校を作った場合にも学習指導要領を変えるつもりはないということです。中高一貫校というのは、従来の教育内容に問題があるわけで、中と高との学習指導要領をそのま

ま使って一貫教育というのは筋が通らない。ところが今の教育課程審議会の「中間まとめ」は中高一貫校にはほとんど言及していない。何しろ来年度（1998年度）から発足しようというのですからね。これはいかにも拙速主義という気がします。

深谷 今、ある部会で「心の教育」をやっているとうかがっておりますが。

下村 あれはやはり一種の便乗でしょう。神戸の連続児童殺傷事件ですが、あれは率直に言うとも一種の病気なんでしょうから、一般化は非常に難しいんです。それをすぐに文部大臣が出かけて行って、「心の教育」と言いだして、それを橋本首相が受け継いだ。なんか仕組みられた印象が拭いがたいですね。

少子化と学校統廃合

深谷 法律関係の話は、大体最終的には下村さんのところにいくようですが、いろいろなケースを扱って、今の学校、特に小学校と中学校の状況をどんなふうにお感じになっておりますか。

下村 荒れがだんだん低年齢化してきています。覚醒剤だってこのごろは小学生まで下りていますし、校内暴力は昭和50年代終わりの1.5倍になっていて、明らかに「第三のピーク」に入っています。新聞をはじめ、マスコミが扱わないものですから、実態を見逃しているんだと思います。小学校は、本当はもうちょっとのんびりしたところのはずなんです。現在の、特に都市部の小学校は、そんな状況じゃないですね。

深谷 これはよく、現場の先生方から聞く話ですが、少子化が進んでいるんだから、学級サイズを落とせないのだろうかという議論がありますね。

下村 そうですね。東京都内の小学校ですと、20人学級から30人学級の間がかなり多くて、すでにもうそうになっている。むしろ少なくなりすぎて問題が起きています。私がやった渋谷区の統合などは、渋谷小学校で2年生が1

人だったんです。3校合併してもらいましたが、1学年2学級は欲しいと言われても、4月に発足した時点では11学級で、1学級足りなかった。

深谷 渋谷のどこですか。

下村 渋谷、大向、大和田の3校が合併しました。それでも教室があまるというくらい少子化が進んでいます。先生方にお聞きすると学級規模が小さくなるのをあんまり期待していないようで、教えやすいのは30人くらいだそうです。

深谷 そして、できれば1学年が最低2クラスですか。

下村 ええ、1学年2クラスで、学校教育法施行規則にいう標準学級の12～18学級。あれに固執しますね。現在、学習指導要領自体が40人規模を前提にしているでしょう。だから、10人前後に減ったりすると、指導ができないんですね。結局、隣接校との合同学習になる。

たとえば20人学級が2つ、21人と20人の2学級あるとしますよね。それが1人減ると40人学級になるでしょう。これはきついですよ。

深谷 1人がものをいうってことがあるんですね。

下村 そうです。これはもう毎年毎年校長が頭をひねります。それで、2年生以上は20人

下村哲夫（しもむら・てつお）氏

プロフィール

1935年、高知県生まれ。東京教育大学大学院修了。教育学博士。現在、早稲田大学教授・筑波大学名誉教授。学校経営、学級経営、学校論にも強い関心を持つ。主な著書に『学校の条件』（学陽書房）、『現代教育の論点』、『教育のみらい、学校のゆくえ』（教育出版）などがある。

下村哲夫氏



ちょっとで2学級あって、1年生だけ40人で1学級、というケースがでてくるんです。

深谷 その辺をもう少し、弾力的にできないのでしょうか。

下村 せめて1年生は専科教員をまわして2学級にするとか、あまり手のかからない4年生あたりは、1学級にするとか、学校の裁量にさせてくれればいいんですがね。幸い東京都は専科が3人ついていますから、1人をまわすという裁量ができれば、ことは済むんですけれど、それも一切だめです。

深谷 渋谷などは、通学距離は遠くなっていくわけですか。

下村 ええ、遠くなりますが、文部省の作った統合の場合の基準距離があって、小学校でおおむね4キロ以内、中学校で6キロ以内、それをオーバーすることは東京では絶対ありません。

深谷 今、小学校が2クラスくらい、中学校はどのくらいだったらいいのでしょうか。

下村 中学校は標準学級でいうと12～18学級ですから、1学年4学級から6学級になります。ところが、東京都の場合、教員配備基準があるでしょう。そのきざみとところどころにあるのですよ。そのきざみによって考えますから、中学校では15学級あればきざみが入る、だからせめて15学級にしたい。

深谷 ということは1学年5クラスですか。ちょっと大きいですね。

下村 大きいです。そのきざみで教員が1人減るか増えるかという問題は非常に大きな問題ですから。先ほどの3校合併の場合など、

教職員数がほぼ3分の1になってしまうんです。教職員の給料は国と都が持っていますから、区としては損ですよ。だからできるだけ小規模校で残しておいて、うまくネットワークを組んでいけたらいちばん得は得なんです。お金の面では。

深谷 交流できるような感じになればいいのですね。

下村 独立校ですからお金はもらえる。学級の規模は小さい。それで互いに交流できれば合同授業を利用して、学習指導要領にあるような授業が可能になる。これがいちばん名案なんです。それを今、世田谷区でやろうと思っているんですけど、なかなか、時間割の調整が難しい。

深谷 でもそれは、聞いている限りではよさそうじゃないですか。

下村 よさそうでしょ。だから統合の前段階としてやってみて、それで駄目なら統合する。1学級が10人を割ったら統合でしょうね。サッカーをするにしても11人は必要ですから。

深谷 よく、地方ですと、学校統廃合というとすったもんだが始まりますね。東京でも始まるんですか。

下村 始まります。渋谷区のとくにもどこに統合するかもめしましたね。また、小学校というのは、阪神大震災以来、住民の避難基地になっているでしょう。だから残してほしい、という声があるんですね。

深谷 当分少子化は続くでしょうから、この話はこれからどこにでも波及する話ですね。

下村 小学校は地域のものですからなるべく存置したい。ただ中学校の場合には、ある程度生徒数が減ればむしろ統合した方がいいかもわかりません。教育活動がかなり活発になりますからね。

深谷 この前も地方でうかがってたら、サイズが小さいと部活動がほとんどだめだと。

下村 だから、結局残るのは、テニスとか、バスケットボールとか、人数が少なくてもできる部活動で、集団競技はもうだめになりま

した。第一教える先生がいないんですよ。東京都の場合、いちばん多い年齢層は48歳なんです。1500人が48歳。そのうち1200人までが小学校です。小学校は7割が女性ですから、48歳の女性の先生が鉄棒や跳び箱の示範授業ではなかなか難しいでしょう。

深谷 今、教員の採用が少ないんで、全国的に教育学部が減ってきているんですよ。

下村 文部省案では、この3年間で1500人いる教員養成課程の学生を1000人にする。

そうなると廃校が出る可能性がありますね。

深谷 先生たちが歳をとって、子どもの数も減っていくとどうなりますか。

下村 学校の活性化はまず無理ですね。

深谷 鹿児島などでは、県でも補正して、少し多めにとっていると聞きましたが。

下村 ええ、今、教員の給与は県半分、国半分ですが、その国半分の分を県が負担すればできるんです。いわゆる単独県負担ですね。

深谷 東京都はやってないように聞いていますけれど。

下村 その代わり、東京都は専科教員をかなりつけていますし、嘱託員制度もあります。だから東京都は条件的にはいいんですよ、まだまだだ。

深谷 ただ採用するのはすごく少ない。

下村 東京都が今年是一次試験では5、6倍採ってるんです。普段は大体2倍ですけど、なぜ5、6倍採ったかという、退職勧奨を強硬にやっている。今やめすと55、6歳で3000万円になります。このまま勧奨をやっていけば、3月末までには相当辞めるんじゃないかと。それで一次試験で5、6倍採ったんですよ。そうしておかないと、48歳の方々のヤマが退職年齢を迎えた頃には、東京都は財政難で潰れます。ですからできる限りヤマを潰しにかかっているんです。

深谷 他の県でも多少そうした動きはあるんですか。

下村 ヤマはありますが、東京都みたいな極端な例は少ないでしょう。当分特例措置はつづくと、現場の教師はふんでいます。勧奨で



深谷昌志氏

どれくらい落ちるか、これからが山場ですね。

深谷 では学校も、変わったところから体質が変わってくる可能性があるわけですね。

下村 もしも勧奨がうまくいって、若い先生がかなり入ってくるようなら、学校は変わるでしょう。

校内暴力が第三のピークに入る

深谷 そうした中で、下村さんの印象では、いじめなんかはやや減ってきた感じですか。

下村 いじめは去年6万人を少し超えましたが、終わったと思っています。校内暴力が第三のピークに入っていますから。学校の課題は今度はいじめから校内暴力に変わると思うんです。①校内暴力が起きる、②学校の監督を強化する、③いじめが始まる、この3つが10年間で1回転したところですよ。これから第2回転目に入って行く。らせん状に上がってくるんだけれど、だんだんと新しい要素が加わってくるんですね。10年前には覚醒剤やテレクラや、援助交際はなかった。今度はそれが加わるでしょう。

深谷 では、問題が起きたとき、中学校の先生はどうしたらいいんですか。素手で太刀打ちできなくなる可能性がありますよね。

下村 今の中学生って体位からしても、先生よりも大きいですよ。いわゆる力による制止とありますが、それも止むを得なくなるでしょうね。少年警察とか、児童相談所などとネットワークを組まなければ対応できないでしょう。

深谷 いくつかのケースをうかがっていると、

個々の先生の説得や、善意などというレベルでは解決できないようですね、この頃は。

下村 最近学校カウンセラーが非常に問題になっています。学校カウンセラーというのは秘密を守る義務があるはずで、子どもが相談に行って、話した内容がカウンセラーから担任の教師に筒抜けになると、子どもはその後話しに行かなくなるでしょうね。ところが担任教師から言うと、なぜカウンセラーが問題を話してくれないのか、という不満が起きるのです。

深谷 たとえば不登校なんかの場合には、カウンセラーって有効だと思うんですが、暴力行為になるとどうでしょうか。

下村 不登校というのは、学校に行った方がいいという原則があるからカウンセリングの対象になるわけですが、本来は学校にこだわらず、自分にいちばんふさわしい場所で勉強すればいいんですから、私はあまり気にしないんです。不登校の子にカウンセリングして、何とか学校に行くようにしたって、これははじめの対象になるだけです。

深谷 もう少し先生の立場でおうかがいしたいんですけれども、学校でたとえば非常に悪

質な校内暴力があった場合には地元の警察ということになりますか。

下村 少年警察というのはわりに親切なんですよ。万引きなんかで警察に届けられたとき、少年警察はほとんど学校に連絡をしないんです。高校生なんかの場合ですと退学になりますからね。

深谷 学園紛争の時代に、それまでは聖地だと思っていたキャンパスを一種のシビックロウみたいな市民的な感覚で開こうじゃないかっていうことで問題解決しましたが、中学なんかも多少そうせざるをえないんじゃないですか。

下村 10年前に卒業式に警察官を臨席させましたからね。その意味でアレルギーはかなり減っているでしょう。警察の方は問題行動のある子どもを捕らえるというのが主体で、学校の方は子どもをよくするという方向で考えるというように、それぞれ役割が違います。また、校内暴力の場合は必ず大将がいる。大将になるとおそらくカウンセラーでも教師でも間に合わないから、少年警察になるでしょうね。

深谷 欧米のケースをみますと、学校はだい



たいキャンパスの中しか守らないですね。欧米の中学で実際に見たのは、校門の外でタバコを吸っている。そこを先生が通っていくわけです。聞いたら、あそこはキャンパスの外だからと。

下村 国によっては18歳で成人でしょう。だから校内に喫煙所がある場合もありますね。子どもを市民としてとらえる場合と、師弟関係ととらえる場合とがはっきり分かれていますのですね。だから一步校門を出れば師弟関係はもうない、対等の市民である。だからポリスを呼べてことになるのでしょう。

深谷 日本の場合はやっぱり、スーパーの万引きにしても学校が出ていかなければとなりますね。

下村 まず学校に連絡が来ますからね。登下校のときに、子どもが窓ガラスを割ったって学校に連絡が来ますからね。

深谷 その場合は法的にも賠償責任があるんですか。

下村 責任はないですよ。法的な賠償義務は保護者にあります。その仲介に当たるのが学校ですけれど、それ以外の責任は学校にはありません。

深谷 すると、法的に言えば、日本でも基本的には学校内が学校の守備範囲であると。ただ社会的な慣習として、地域の問題にはかなり関与しなければならぬでしょうね。

下村 実際はそうでしょうね。

学校選びの時代へ

深谷 学校の守備範囲でいうと、たとえばいじめの問題で、どうも担任がいまひとつ動いてくれなかったという話が非常に多いようですが。

下村 いじめとみたくない心理は学級担任、校長にありますので、学校としてはひょっとしたら、お父さんお母さんの思いすごしではないですか、というところがありました。しかし、いじめが非常に深刻な問題になってきた今日、特に家庭から相談があった場合は真

剣に受け止めようと、文部省も通達しましたから、今はそういうことはないと思いますが、もしもそういうことがあれば、今のお父さんお母さんは教育委員会にすぐ電話します。その次は新聞社に。すると教育委員会から学校に電話するしかない。

深谷 あまり解決になるとは思いませんけど、転校は簡単にできるんですか。

下村 東京都の場合は簡単です。たとえば大田区の場合、この春 900件からありました。従来ならば 700件から 800件前後だったんですけれどね。

深谷 その 700件は、自動的に家に移ったというケースではないんですか。

下村 大田区の場合にはかなり流れているでしょうね。有名な田園調布があるから。

深谷 すると学区を越えた。

下村 越えた移動でしょうね。この春に、地方分権推進委員会の勧告で、学校指定を弾力化しろって出ましたよね。だから就学案内には、学校指定に疑問や不満がある場合には、教育委員会が応じると、一応書いてあります。それだけで 100件近く増えました。

深谷 自分の地域の公立の小学校に行きたくない、って言い方もいいんですか。

下村 何か理由がいますよね。いじめがあるとか、サッカーをしたいけれどうちの指定の中学校ではサッカーができないとか、バンドがしたいとかね。

深谷 そのくらいの理由でもいいんですか。

下村 ええ、結構です。地方分権推進委員会の答申では、保護者ないし本人の希望、と書いてありますから、従来のような身体的理由とか地理的理由、いじめを問わず、それ以外の理由でも認められています。

深谷 それは、各学校単位ではなくて、区で処理するんですか。

下村 ええ、そうです。

深谷 学校単位ではできないんですか。たとえば親が、学校とどうもうまくいかなかったというような場合は、教育委員会と相談するんですか。

下村 そうです。まだ学校教育法施行令第5条2項で、区市町村教育委員会権限なんです。深谷 何校かあって、教育委員会に理由書を提出すれば、転校できるのですか。

下村 校長先生に一言話をしておいて、校長先生が教育委員会と相談して、それじゃあ、あの学校に行くということになりますね。その点、関東は比較的自由です。私は高知生まれですけど、できるのは高知市だけでしょうね。

深谷 すると、市町村の教育委員会を越えてはできない。

下村 いえ、できます。だからこれからの公立学校は生存競争です。

深谷 たとえば隣の町から、市の方へ移ろうと思って何か理由があれば、移れる可能性があるんですか。

下村 むろんあります。ただ県を越える場合はややこしくなりますけど。

深谷 申請をすれば、地域によるんでしょうけど、通ると思ってよろしいのでしょうか。

下村 だめだという理由がないんです。本人の希望と保護者の希望があれば。

深谷 じゃあその、学区制の枠というのは実質的には崩れかかっていますか。

下村 崩れかかっています。今やっている学校統廃合でも、予定就学者数は机上計算だけです。平成14年までは各学校ごとに児童・生徒数の推定値があるんですが、それで見ると、この学校は平成14年に何人くらいになっているってわかりますね。ただしそれは現在の学区が目安になっているので、その枠を取ってしまえばわかりません。

深谷 もうひとつ突っ込むと、担任を選べるというのはどうですか。

下村 これは難しいですね。

深谷 本人が学級担任を選ぶ権利はありますか。

下村 そうですね、要するに転学級の自由ですね。

深谷 転級ですね。転学はまあ一応、今お話を聞いていると、かなりできそうですけれど、

転級ってのはかなり難しいんですか。

下村 やっても効果がないだろうという人が多いんです。

深谷 同じ学校では。

下村 ええ、あの子がいじめられてこの学級に来たってことはみんな知っていますから。だからあまり効果がないのではないかと思いますね。

深谷 それよりはむしろ学校を変わった方がいいかもしれない。

下村 いいでしょうね。しかし、これだって転校の理由が自ずからわかります。むしろ転校が契機になっていじめられるという例もありますから、危険度においてはあまり変わりがないかもしれませんね。非常にややこしい問題です。

深谷 市町村で今、いじめているお子さん、いじめられているお子さんたちを特別なセンターで教育していますね。

下村 適応教室のことですね。出席をとって勉強らしきものをやっているところもあれば、出席もとらずに一部屋あけておいて、出入り自由ってところもあるんです。出席簿上は欠席ですが、指導要録上は出席になる。それだけの意味しかないかもしれませんが、少なくとも学校以外に教育の場があるということに公認したことになります。

深谷 フリースクールみたいなのはどうですか。

下村 学校に帰しないと公言しているような民間施設はだめですが、そうでなければ融通がきくかもしれません。教育委員会にも面子がありませんからイエスとは言えないにしても、そこを曖昧にしておけば、指導要録上は出席扱いをするという可能性はありますね。

深谷 そうした話を聞いていると、かなり堅い法律のはずが、運用の仕方、ずいぶん柔らかくなってきているんですね。

下村 今後、従来通り堅く締めたのではとても成り立たないし、かといって学校教育法22条を改正して就学義務をなくすとすると、これは非常に難しいでしょう。実態を見れば、

文献紹介

『学校の条件』

下村哲夫著『学校の条件』（学陽書房）から、「学校週五日制に備える 2『ゆとり』を生み出す学校経営」（P84～89）を抜粋しました。

「ゆとり」を生み出す学校経営

帰ってきた「ゆとり」を大切に

教育課程の編成で「ゆとり」が強調されたのは、今に始まったことではない。もう20年の余も前のことになるが、昭和52年版学習指導要領の掲げたスローガンが「ゆとりと充実」であったのをご記憶の向きはまだ多いはずだ。

昭和48年11月に発足した教育課程審議会は、高度経済成長のもとでの教育荒廃、非行の増加、落ちこぼれ、地域社会の崩壊等の実態を踏まえ、より広く、より多くを求めて続けてきた趨勢に初めてブレーキを掛け、授業時数の1割減、教育内容の2割減を打ち出した。教育課程改善の三本柱の中心は「ゆとりあるしかも充実した学校生活を送れるようにすること」に置かれたのである。

最終答申が出て間もなく、私はある雑誌社の肝入りで教育課程審議会の会長を務められた高村象平さんと対談したことがある。場所は慶応大学の塾長を務められた高村さんのご希望で銀座の交詢社だったと記憶している。「ゆとり」が話題になると、高村さんは「ねえ君、算数の授業だと分かりの早い子と遅い子がいるだろう。分かりの早い子が運動場で鉄棒にぶら下がってでもいる間に、先生は遅れた子をじっくり教えることができる。それが『ゆとり』なんだよ」といって楽しそうに笑われた。

しかし、実際には「ゆとり」は、高村さんの期待したようにはならなかった。ほとんどの学校がいわゆる学校裁量時間を特設して、

せっかくの「ゆとり」をつぶしてしまったからである。子どもたちにとっては「ゆとりの時間」という名前の新しい「教科」の登場に過ぎず、教師はこの新しい「教科」の準備に振り回された。「ゆとりゆとりでゆとりなし」の悲喜劇が各地で起きた。

それから20余年して、「ゆとり」は再び「生きる力」と並んで脚光を浴びている。この帰ってきた「ゆとり」を今度こそは本物の「ゆとり」にしたい。

熟してきた「ゆとり」の客観的条件

もっとも前回の「ゆとり」と今回の「ゆとり」はまるで同じものではない。前回の「ゆとり」が、分秒刻みの列車のダイヤにたとえられた子どもたちの学校生活にまずは「ゆとり」を取り戻そうというところにあつたのに対し、今回の「ゆとり」は、「これからの教育のあり方の基本的な方向」として提示された『生きる力』をはぐくんでいくこと」の条件として位置づけられている。家庭や地域社会、広く社会全体の連携が必要である。「生きる力」をはぐくむのは学校だけではできない。「ゆとり」もまた子どもの学校生活に限られてはなるまい。子どもの生活全体に「ゆとり」が必要であり、さらに社会全体が時間的にも精神的にも「ゆとり」を持つことが必要である。

前回の「ゆとり」では授業時数の削減に大きなウエイトが置かれ、公立中学校では英語の週3時間制が強行された。その結果、高校

受験に備えて塾通いの生徒が急増し、地方では英語に週5時間、6時間を充てる私立学校志向が定着した。学校生活の「ゆとり」は子どもの生活の「ゆとり」には結びつかなかったのである。この懸念は完全学校週5日制の実施を前提にした今回の教育課程の改訂においても拭えない。ましてや社会全体の「ゆとり」となると、これはもう教育論議の域を出たものだ。

ただし、20余年前の昭和50年代と現代とが大きく異なるのは子どもの数が大幅に減少していることだ。当時600万人を超えた中学生は、現在450万人そこそこである。数の上では高校全入制はすでに実現しているし、近い将来には大学のユニバーサル化も実現する。従来、教育改革の隘路あいろとされてきた高校入試もかなり改善され、大学教育も大きな変革を迫られている。子どもの生活に「ゆとり」を取り戻す客観的条件は熟してきていると見てよい。

子どもの「ゆとり」、教師の「ゆとり」

子どもの学校生活に「ゆとり」を取り戻すには、まずもって教師の「ゆとり」が必要である。改めていうまでもないが、現在の教師の学校生活には総じてあまりに「ゆとり」が乏しい。何せ、週6日制で組んだ時間割を月2回の週5日制でこなそうというのだからどうしても無理がでる。春と秋の運動会を1度にし、さらに運動会と文化祭を隔年にして学校行事の「精選」を進め、学校行事の準備に充てた時数を教科の時数に読み替えるなど、それなりに知恵を絞っても所詮は小手先の細工に過ぎない。教師はともかく各年度内に教科書を上げるのに精一杯だし、それについていけない子どもはやむなく補習塾に通う。「ゆとり」は子どもの学校生活ばかりでなく、子ども生活全体からも奪われている。年間標準授業時数の確保にこだわり続ける限り、こうした状況の改善は望めない。

実際、多くの教師はいつも何かに追い立てられているような心境にある。担任は生徒の

ようすが少しおかしいと思っても、声を掛けるのが精一杯でじっくり話し合う時間の「ゆとり」も気持ちの「ゆとり」もない。いじめばかりが話題になっているが、この数年、中学生の校内暴力は、昭和60年代初めのピーク時をすでに上回っている。とりわけ生徒間暴力の発生件数は当時の1.5倍、器物破損の発生件数に至っては3.6倍という有様である。これがマスコミで問題にならないのが不思議なくらいだ。教師の目が生徒から遠くなっているのではないかといわれてもしょうがあるまい。

その教師の「ゆとり」のなさを生み出しているのは、多くの場合、授業ではなく会議や分掌事務の処理である。中学校では過熱する部活動も一役買っている。

これは考えてみればおかしなことだ。現在の学校はガリ版と謄写版のひとこと違い、複写機、印刷機、パソコン、ワープロ、ファックスなどの事務機器が充実し、事務処理はずいぶん楽になっているはずだ。教職員定数も次第に改善され、事務職員の配置も増えた。その面に関する限り、教師の負担はかなり軽減されており、なお多忙感にさいなまれ、生徒に向ける目も遠くなりがちというのは筋が通らない。

かつて学校経営の近代化が主張されたころ、その手始めとして3M、つまりムダ・ムリ・ムラの排除が説かれた。しかし、ムダ・ムリ・ムラをなくしてみても相変わらず学校は忙しい。率直ないい方を許してもらえれば、教師はむしろ忙しさを楽しんでいるのではないか。あれもこれもと仕事に追われていないと存在感や充実感を持ってなくなっているのではないか。その結果、古いムダ・ムリ・ムラをなくすれば、その代わりに新しいムダ・ムリ・ムラを創り出し、背負い込んでいいはしないか。学校のスリム化が論じられているが、家庭や地域社会との連携を説く前に、学校は会議や分掌事務の処理をはじめ、自らのスリム化を図るべきだろう。学校経営に携わる校長、教頭はそういう目で学校経営を見直してほしい。教師に「ゆとり」がなければ子どもの学校生

活にも「ゆとり」はないのだから。

まず校長が変わって見せる

学校は時間がゆっくり流れる場にしなければならぬ。わが国の学校システムでこの条件を曲がりなりにも満たしているのは、幼稚園と大学、つまり学校システムの入口と出口である。小学校から中学校、そして高校までは学校段階が進むにつれ、学校の時間は早く流れ始め、学校はゆとりのない息苦しいものになる。とりわけ小学校と中学校との学校経営の落差は大きい。いじめや校内暴力がこの時期に集中して多いのは、子どもの発達段階もあるが、この学校風土の落差によるところが大きい。中学校における学校経営の課題は、この中学校の学校風土をどのように改めるか。どれほど時間のゆっくり流れる場に変えられるかにかかっている。

2003年からの実施を予定されている教育課程の改訂では、教育内容の「厳選」と授業時数の「縮減」が大きな話題になっている。当面、完全学校週5日制の実施にともなう授業

時数の「縮減」が問題になっているが、本来は国民の教育水準にかかわって教育内容の「厳選」がどこまで可能かがまずもって問われなければならぬ。しかも子どもの学校生活に「ゆとり」を約束するには、授業時数の「縮減」よりも大幅な教育内容の「厳選」が必要になる。

2003年からといえば、まだこれから6年先のことになる。それまでこの学校の現状をそのまましておくわけにはいくまい。学校現場としては、教育課程審議会の審議の方向を見守るだけでなく、現在の中学校の教育内容からしてどこまでの「厳選」が可能なのかを、学校自身の責任で自主的に考え、試み、提言していくほどの覚悟が必要である。学校がいつまでも外から「変えられる存在」に甘んじていてはいけぬ。

「ゆとり」は、時間にも気持ちにも欠かせない。その「ゆとり」をどう確保するか。教師が変わらなければ学校は変わらない。そのためにはまず校長が変わってみせるしかない。

ちょうさのおねがい

これはテストではありません。日本の子どもたちにたくさんおねがいして、その生活をしらべるためのものです。思ったことをそのまま答えてください。

やりかたの練習

あなたはカレーライスがすきですか？

とても 好き	かなり 好き	ふつう	少し きらい	とても きらい
1	②	3	4	5

あなたがもしカレーライスを「かなり好き」だと思ったら
上のように番号のところを でかこんでください。

(単位：パーセント)

1) まず、あなたの学校、男女などを教えてください。

1) 学校の名前..... () 小学校 (6) 年生

2) 男・女..... (1 . 男子 2 . 女子) でかこむ
49.5 50.5

2) あなたは、次のようなとき、どんな気持ちですか。

	とても 楽しい	わりと 楽しい	少し 楽しい	あまり 楽しく ない	ぜんぜん 楽しく ない
1. 朝、目がさめたとき.....	5.4	11.9	24.3	36.9	21.5
2. 朝食のとき.....	11.2	22.5	35.8	23.5	7.0
3. 授業の始まる前.....	11.6	21.0	27.9	25.5	14.0
4. 算数の時間.....	13.5	20.3	22.3	23.3	20.6
5. 休み時間.....	66.5	23.5	7.5	1.9	0.6

資料 調査票見本および集計結果

	とても 楽しい	わりと 楽しい	少し 楽しい	あまり 楽しく ない	ぜんぜん 楽しく ない
6. 体育の時間.....	44.8	29.6	15.5	6.8	3.3
7. 給食（昼食）の時間.....	39.6	34.0	19.9	5.3	1.2
8. クラブ活動の時間.....	53.5	27.1	13.2	4.2	2.0
9. そうじの時間.....	5.1	17.9	32.0	28.5	16.5
10. 家に帰ってから、友だちと 遊ぶとき.....	76.3	17.5	4.1	1.2	0.9
11. 家でマンガを読むとき.....	40.1	34.3	17.6	4.5	3.5
12. 夕食のとき.....	30.5	34.2	25.2	7.8	2.3
13. 夜、親と話するとき.....	24.8	31.2	28.4	9.7	5.9
14. テレビを見るとき.....	58.2	32.0	7.9	1.5	0.4
15. 宿題や勉強をするとき.....	3.7	15.9	29.8	30.8	19.8
16. 夜、ねる前.....	24.4	22.5	27.7	17.4	8.0
17. ねているとき.....	38.1	16.8	21.2	9.7	14.2

3 あなたは、学校の中で、次のような場所にいるとき、どんな気持ちになりますか。

	とても ホッと する	わりと ホッと する	少し ホッと する	あまり 落ち着か ない	とても 落ち着か ない
1. 教室.....	13.6	29.5	39.9	13.0	4.0
2. 保健室.....	15.9	18.8	25.3	28.4	11.6
3. 図工室などの専科の教室.....	14.0	25.0	32.7	22.6	5.7
4. 図書室.....	38.2	28.2	22.0	8.3	3.3
5. 屋上（おくじょう）.....	26.6	18.4	21.8	13.6	3.7 15.9 ない
6. 校庭や体育館.....	23.7	22.9	29.4	19.2	4.8
7. 職員室.....	4.9	5.5	14.2	43.1	32.3
8. 校長室.....	5.7	5.2	9.7	27.8	51.6
9. 飼育している動物（ウサギや 金魚など）のそば.....	26.4	19.6	30.4	15.4	8.2
10. 廊下（ろうか）.....	10.3	16.8	37.0	27.2	8.7

4 では、あなたは、次のような場所にいるのは、楽しいですか。

	とても 楽しい	わりと 楽しい	少し 楽しい	あまり 楽しく ない	ぜんぜん 楽しく ない
1. 自分の部屋.....	39.7	31.0	18.8	7.3	3.2
2. 家族がみんなで集まるような部屋.....	42.4	29.7	19.3	5.6	3.0
3. 友だちの家.....	47.6	35.9	12.6	2.8	1.1
4. 学校.....	24.6	28.2	27.9	10.9	8.4
5. 学習じゅく（行っている人だけ）.....	26.1	27.7	20.6	12.9	12.7
6. ピアノやスイミングなどのおけいこ の場所（行っている人だけ）.....	38.2	28.9	18.5	8.0	6.4

5 あなたは今までに、次のようなことがどのくらいありますか。

	しょっちゅう ある	わりと ある	たまに ある	ほとんど ない
1. 国語の教科書をみんなの前で読んだこと...	9.7	24.3	48.3	17.7
2. 漢字テストで100点を取って うれしかったこと.....	20.2	31.6	32.7	15.5
3. 算数の問題のとき方をみんなに 説明したこと.....	8.1	13.2	30.8	47.9
4. 算数のむずかしい問題がとけて うれしかったこと.....	17.5	30.5	37.4	14.6
5. 理科の実験をいろいろくふうして やったこと.....	13.0	29.3	36.5	21.2
6. 理科の実験や観察がうまくいって うれしかったこと.....	15.9	30.6	35.7	17.8
7. 社会で資料を使ったり、実際に行ったり して、いろいろ調べたこと.....	16.9	30.2	35.9	17.0
8. 社会で調べたことを新聞のように じょうずにまとめられてうれしかった こと.....	14.8	29.6	36.4	19.2
9. 図工でじょうずな作品が作れて うれしかったこと.....	20.7	34.1	31.6	13.6
10. 音楽でじょうずに楽器がえんそう できてうれしかったこと.....	21.1	30.8	31.4	16.7
11. 調理実習でおいしい料理ができて 楽しかったこと.....	26.5	35.2	28.7	9.6

資料 調査票見本および集計結果

	しょっちゅう ある	わりと ある	たまに ある	ほとんど ない
12. 体育の授業が楽しくて夢中で運動 したこと.....	33.8	26.6	26.6	13.0
13. とび箱がとべてうれしかったこと.....	27.3	25.7	29.8	17.2
14. 学級会で自分の考えを発表したこと.....	13.1	16.5	30.0	40.4

6 あなたは、次のような勉強をしているとき、どんな気持ちになりますか。

	とても 楽しい	わりと 楽しい	少し 楽しい	あまり 楽しく ない	ぜんぜん 楽しく ない
1. 国語の漢字の勉強.....	11.8	20.7	29.1	26.0	12.4
2. 作文を書く.....	12.8	17.7	22.6	24.7	22.2
3. 物語や説明文の読み取り.....	14.9	17.9	28.1	24.6	14.5
4. 分数や小数の計算.....	19.8	18.2	23.5	21.6	16.9
5. 算数の図形を書く.....	22.8	21.8	22.8	18.9	13.7
6. 算数の文章問題をとく.....	17.1	15.5	21.6	26.3	19.5
7. 理科の実験.....	38.6	29.3	17.8	8.7	5.6
8. 植物や太陽・星などの観察.....	26.8	25.4	23.0	14.2	10.6
9. 歴史の勉強.....	27.5	20.5	21.6	16.7	13.7
10. 農業や工業の勉強.....	12.1	14.4	30.5	25.8	17.2
11. サッカーやバスケットボール.....	52.4	19.3	14.6	7.9	5.8
12. マットや鉄ぼう.....	22.7	19.8	24.3	18.1	15.1
13. 調理実習.....	52.8	23.2	14.7	5.5	3.8
14. 歌や楽器をえんそうする.....	34.2	22.5	20.8	12.4	10.1
15. 絵をかいたり工作を作る.....	42.8	25.0	18.4	7.7	6.1
16. 国語のテスト.....	13.7	20.3	25.9	23.8	16.3
17. 算数のテスト.....	18.1	17.8	19.8	21.7	22.6
18. 調べたことをまとめて発表すること.....	11.0	13.5	25.3	26.7	23.5

7 あなたは、次のようなときは楽しいですか。

	とても 楽しい	わりと 楽しい	少し 楽しい	あまり 楽しく ない	ぜんぜん 楽しく ない
1. 移動教室.....	66.9	18.6	8.6	3.5	2.4
2. 児童集会.....	10.9	25.3	30.4	20.3	13.1
3. 運動会.....	47.0	25.6	14.6	7.4	5.4
4. 遠足.....	62.0	23.2	8.8	3.5	2.5
5. 学芸会.....	39.9	26.0	19.0	8.3	6.8
6. てんらん会.....	25.3	26.5	26.3	13.9	8.0
7. 夏休み.....	86.2	7.8	3.1	1.6	1.3
8. 日曜日.....	65.3	19.8	7.2	4.8	2.9

8 あなたは、次の教科が好きですか。

	とても 好き	わりと 好き	少し 好き	あまり 好きで ない	ぜんぜん 好きで ない
1. 国語.....	16.1	30.9	29.2	16.1	7.7
2. 社会.....	23.0	26.0	23.7	17.0	10.3
3. 算数.....	26.3	20.5	17.8	17.9	17.5
4. 理科.....	26.9	31.6	23.1	12.3	6.1
5. 音楽.....	33.5	24.4	19.5	11.8	10.8
6. 図工.....	42.7	26.0	17.3	8.5	5.5
7. 体育.....	52.0	22.5	13.0	7.5	5.0
8. 家庭科.....	39.6	26.3	18.5	9.5	6.1

9 あなたは、今までの小学校生活をふりかえって、一番うれしかったことはどんなことですか。

- ①学習・行事 林間学校。移動教室。遠足。社会科見学。夏休み。プール。キャンプファイアー。運動会で1位になった。リレーの選手に選ばれた。バスケットボールがうまくできた。検定に合格（プール・漢字など）。賞をもらったこと（図工、展覧会、絵、書き初め、ポスターなど）。テストで100点を取った。できなかった問題ができた。成績がよかった。音楽会の演奏でピアノが上手に弾けた。パソコンができた。跳び箱の8段が跳べた。エプロンが上手に縫えた。クラブでの活躍。
- ②友人関係 友だちがたくさんできた。けんかして仲直りした。1年生のとき、6年生にやさしくされた。いじめがなくなった。
- ③教師関係 ほめられた。

10 では、一番いやだったことは、どんなことですか。

- ①学習・行事 作文を書く。テストの点が悪い。算数のテスト。算数の時間。プールの検定。皆の前での発表。運動会での失敗。ウサギが食べられたこと。展覧会でへんな物を作って恥ずかしかった。
- ②友人関係 いじめ。悪口。無視。嫌なあだ名。けんか。内緒話。いじめに参加した自分。
- ③教師関係 叱られた。ひいきする。意見をつぶされた。

11 あなたは、休み時間、おもにどんなことをしていますか。

	とてもよく している	わりと している	ときどき している	あまり していない	ぜんぜん していない
1. 教室でおしゃべりしている.....	24.1	26.8	23.3	14.1	11.7
2. 教室で1人で遊んでいる.....	2.5	3.4	9.5	23.3	61.3
3. 先生のまわりにいる.....	1.4	3.8	16.0	31.6	47.2
4. 友だちと外で遊ぶ.....	40.1	22.4	19.9	10.9	6.7
5. 校庭でみんなが遊んでいる のをみている.....	3.4	7.2	17.2	28.0	44.2
6. 保健室にいる.....	0.8	2.1	6.6	18.7	71.8
7. 階段や廊下(ろうか)で 遊んでいる.....	5.3	9.2	19.6	24.1	41.8
8. 階段や廊下で1人で遊んで いる.....	0.9	0.8	2.1	10.3	85.9
9. 他のクラスに行って遊んで いる.....	3.5	5.4	12.5	16.8	61.8

12 あなたは、学校にいるとき、次のように思うことがありますか。

	とてもよく ある	わりと ある	ときどき ある	あまり ない	ぜんぜん ない
1. クラスの中に話をする友だちが いない.....	3.9	4.4	9.5	22.4	59.8
2. 仲間に入れてもらえなくてさみしい.....	2.0	2.7	9.3	25.2	60.8
3. クラスになじめなくて、学校に行き たくない.....	1.7	1.4	6.8	16.5	73.6
4. 仲よしの友だちといっしょにいても つかれる.....	3.0	4.5	12.6	21.4	58.5
5. クラスに悪口を言う子が多く、いやな 気持ちになる.....	9.9	8.9	20.7	23.1	37.4

資料 調査票見本および集計結果

	とてもよくある	わりとある	ときどきある	あまりない	ぜんぜんない
6. クラスにぼう力をふるう子がいて こわい.....	5.7	4.7	10.8	21.8	57.0
7. 友だちから自分がどうみられているか、 気になる.....	17.6	14.4	24.2	17.5	26.3

13 あなたは、次のような友だちがいますか。

	いない	1人いる	2、3人いる	5人くらい	10人くらい	たくさんいる
1. 運動や成績でライバルになる友だち.....	44.5	15.0	26.5	7.4	1.4	5.2
2. こまっているとき、相談にのってくれる 友だち.....	14.6	11.1	36.6	18.1	4.2	15.4
3. いっしょにいてつかれない友だち.....	9.2	8.8	19.6	17.5	8.4	36.5
4. いつもいっしょに遊べる友だち.....	8.6	7.2	24.8	20.9	8.6	29.9
5. 宿題や勉強を教えてもらえる友だち.....	23.9	11.4	34.9	13.9	4.3	11.6
6. ゆうえつ感（自分の方がすぐれている） がもてる友だち.....	37.2	13.3	23.0	12.1	4.2	10.2
7. マンガやゲームソフトを自由に使わせて くれる友だち.....	31.1	14.4	26.0	10.2	4.8	13.5

14 では、あなたは、たんにんの先生といるとき、次のように感じることはありませんか。

	とてもある	わりとある	少しある	あまりない	ぜんぜんない
1. 先生から信らいされていると思う.....	3.2	10.2	28.1	34.3	24.2
2. 先生のそばにいと安心する.....	6.2	10.2	23.0	30.7	29.9
3. 先生から好かれていと思う.....	2.1	6.4	19.9	38.4	33.2
4. 先生から自分がどうみられているか、 気になる.....	10.9	13.2	22.0	21.0	32.9
5. 先生から無視されていると思う.....	2.6	3.0	11.1	34.9	48.4
6. 先生に自分の思っていることをうまく 言えない.....	8.7	12.4	21.2	27.5	30.2

資料 調査票見本および集計結果

15 あなたは、たんになんの先生から、次のようなことをされたり言われたりすることがありますか。

	とても ある	わりと ある	少し ある	あまり ない	ぜんぜん ない
1. 先生からほめられてうれしかった.....	11.1	22.2	36.7	17.7	12.3
2. 先生から声をかけられてうれしかった.....	6.1	11.7	25.6	31.1	25.5
3. 「がんばれ」とはげまされてうれしかった...	8.7	13.1	28.2	27.3	22.7
4. 先生からしかられて悲しかった.....	5.7	8.2	24.3	34.5	27.3
5. 先生から無視されて悲しかった.....	2.1	2.0	8.4	28.1	59.4

16 あなたのたんになんの先生は、どんな先生ですか。

	とても そう	わりと そう	少し そう	あまり そうで ない	ぜんぜん そうで ない
1. 子どもの気持ちができる先生.....	21.1	24.9	28.0	15.6	10.4
2. 熱心に勉強を教えてくれる先生.....	25.5	27.5	27.6	12.1	7.3
3. 心配事はいっしょに考えてくれる先生.....	21.6	22.5	26.7	17.2	12.0
4. 楽しい先生.....	33.6	23.0	21.9	11.9	9.6
5. こわい先生.....	12.9	13.9	23.8	26.6	22.8
6. しからない先生.....	4.1	6.9	19.7	34.7	34.6
7. まちがいをすなおにあやまる先生.....	23.4	21.2	26.8	15.7	12.9
8. 自分勝手な先生.....	7.2	4.7	13.3	28.6	46.2

17 あなたのクラスは、どんなクラスですか。

	とても そう	わりと そう	少し そう	あまり そうで ない	ぜんぜん そうで ない
1. よく勉強するクラス.....	5.4	17.4	35.8	30.2	11.2
2. 楽しいクラス.....	53.6	27.2	12.6	4.4	2.2
3. 授業中、よく手をあげるクラス.....	10.8	20.9	33.6	25.5	9.2
4. 男女仲のよいクラス.....	17.2	16.1	25.1	23.5	18.1
5. よく遊ぶクラス.....	43.5	29.0	18.4	6.8	2.3
6. まとまりのあるクラス.....	10.6	18.1	32.2	24.5	14.6

18] あなたは、学校に行くのが楽しみですか。

とても 楽しみ	わりと 楽しみ	少し 楽しみ	あまり 楽しみでない	ぜんぜん 楽しみでない
23.9	33.1	24.8	10.9	7.3

19] あなたは、今のたんじんの先生になってよかったですか。

とても よかった	わりと よかった	少し よかった	あまり よくなかった	ぜんぜん よくなかった
27.8	26.5	23.5	11.9	10.3

20] あなたは、今のクラスになってよかったですか。

とても よかった	わりと よかった	少し よかった	あまり よくなかった	ぜんぜん よくなかった
36.9	28.1	20.7	9.5	4.8

21] あなたは、次のようなことがあてはまりますか。

	とても そう	わりと そう	少し そう	あまり そうで ない	ぜんぜん そうで ない
1. 仲よしの友だちが多い.....	37.4	36.0	18.2	6.4	2.0
2. 勉強が得意.....	10.3	16.9	27.5	28.3	17.0
3. スポーツが得意.....	23.2	18.6	21.2	23.2	13.8
4. きまりを守る.....	6.9	19.0	37.8	25.9	10.4
5. たんじんの先生にほめられることが 多い.....	4.0	9.2	29.9	39.0	17.9
6. たんじんの先生にしかられることが 多い.....	6.7	10.1	23.8	42.2	17.2
7. クラスの中で人気がある.....	3.3	7.9	21.7	39.9	27.2
8. スポーツ大会などで、リーダーに なる.....	5.6	9.0	12.5	27.7	45.2

22] あなたの成績は、クラスの中でどのくらいですか。

上の方	中の上	まん中くらい	中の下	下の方
12.1	18.9	37.2	17.8	14.0

～ これで終わりです。どうもありがとうございました。～